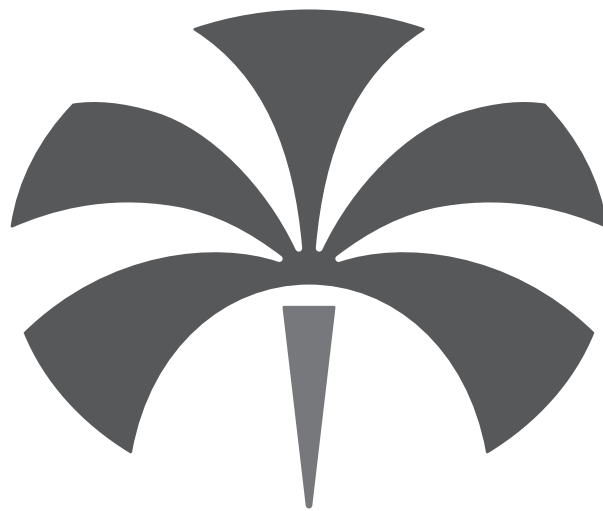


2022（令和4）年度入学生用

国際基幹教育機構 開設科目要覧

（学部・学域生用）



大阪公立大学

国際基幹教育機構

目次

I. 基幹教育の目的・理念・目標

II. 履修要項

	ページ
1. 国際基幹教育機構 開設科目とは（授業科目の種類）	3
2. 学年・学期・授業期間等	3
3. 授業時間	4
4. 授業科目の単位、単位制	4
5. 履修課程と履修上の注意	5
6. 科目ナンバリング	6
7. 履修登録	7
8. 成績評価・試験	8
9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制	8
10. 外国語科目（英語）の単位認定および（初修外国語）初級履修免除制度について	10
11. 定期試験受験心得	10
12. 成績評価についての異議申立	11
13. 休講・欠席	11
14. 修学上の配慮・支援	13
15. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入	13

III. 科目の紹介・科目一覧

1. 総合教養科目	17
2. 初年次教育科目	23
3. 情報リテラシー科目	31
4. 外国語科目（英語・初修外国語）	33
5. 特例科目	41
6. 健康・スポーツ科学科目	43
7. 基礎教育科目	45

IV. 履修に関するその他の情報

1. Q&A	51
2. キャンパス配置図等	53
3. 相談窓口	61

I. 基幹教育の目的・理念・目標

I. 基幹教育の目的・理念・目標

大阪公立大学が社会から求められ、また社会に提示すべき教育は、以下に示すような能力を備えた人間を育てることであり、国際基幹教育機構ではこれらの能力を身に付けることのできる科目体系を整備しています。すなわち、「教養」「専門的能力」「情報収集・分析力」「行動力」「想像力」「自己表現力」に加えて、確かな論理的な能力と豊かな感性、他者と社会に対する共感と倫理的態度を育てることです。これらの能力を身に付けて社会の中でそれを発揮できる人間の育成を行うために、基幹教育が目指す目的・理念・目標を次のように定めています。

多くの大学において、入学後の初期段階の教育を「初年次教育」「教養教育」「全学共通教育」などと明示する中で、大阪公立大学ではそれを「基幹教育」と称しています。その理由は、我が国の初等中等教育（留学生においては海外の同等課程）から接続した教育としての高等教育への展開、生涯にわたり継続的・発展的な学修を行う態度を身に付けることの実現、世界市民として活躍するために当然に備えるべき教養および専門教育に向けた体系的な準備学修を行うという意味、学士課程教育の大きな基となり教育体系の重要な幹の要素をなすものという意味を込めているからです。

入学後の初期段階での教育については、すでに多くの大学がそれぞれの大学の理念に沿ったカリキュラムでの実現あるいは実現への努力をしていますが、大阪公立大学においても、学生の入学後直ちに実施することとなる「基幹教育」をいかに実施し、この共通の土台から専門教育へと繋げていくかは、大学教育全体の根幹をなします。

そもそも従来の「教養」という言葉は、世界のそれぞれの文化において、漢詩や古代ギリシャの文化などを基礎として、人文科学、社会科学、自然科学、技術など幅広く積極的に理解すること、また学ぶもの自身の成長を指し示すものでした。しかしながら、現在では身に付けるべき「文化」は一つではなく、成長するのは自分一人ではありません。大学は、異なる文化や社会、またそれぞれに属する個人を含めてともに

成長する場であり、異なる文化や思想がぶつかりあう社会において、自ら属する文化への深い理解に根ざしながらも、より実践的な倫理的態度・志向性と他者への共感を持ちながら、全ての文化に共通する「知」である論理的能力あるいは創造的な感性を手がかりとして、待ち受ける世界の課題に挑戦できる能力こそが、大阪公立大学の基幹教育で行う「教養教育」です。

すなわち「地域に根差し世界に羽ばたく人の育成」を志向する、多様な世界に通用する新たな教養教育こそが、大阪公立大学の基幹教育の理念です。この理念を達成するために、基幹教育は「教養」「専門的能力」「情報収集・分析力」「行動力」「想像力」「自己表現力」などの能力を身に付けて社会の中で発揮できる人間、また卒業後もなお自律して学び続ける姿勢をもち、確かな論理的能力と豊かな感性、他者と社会に対する倫理的態度を持った学生を育成するための入学後の初期段階を中心とする教育の提供と実施を行うことを目的とします。

II. 履修要項

II. 履修要項

1. 国際基幹教育機構 開設科目とは（授業科目の種類）

大阪公立大学の授業科目は、基幹教育科目、専門科目、資格科目および副専攻科目に区分されています。国際基幹教育機構では、下表のように、基幹教育科目、資格科目および副専攻科目の一部を開講しています。

基幹教育科目は主に1年次・2年次において学び、多くの専門科目は2年次以降に学びます。全学部・学域に共通した基幹教育科目は総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、特例科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれます。詳しくは、「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認してください。

(表) 科目区分および開設部局

科目区分		開設部局	
基幹教育科目	総合教養科目	国際基幹教育機構	
	初年次教育科目		
	情報リテラシー科目		
	外国語科目		英語 初修外国語
	特例科目		日本語
	健康・スポーツ科学科目		
	基礎教育科目		
専門科目		各学部・学域	
資格科目	教職科目	国際基幹教育機構	
副専攻科目		各学部・学域 国際基幹教育機構	

- (1) 専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択自由科目の区分は、各学科・学類の標準履修課程表を参照してください。
- (2) 資格科目の履修については『教職課程の手引』、副専攻科目については『副専攻ガイド』を参照してください。

2. 学年・学期・授業期間等

学 年：4月1日～翌年3月31日

学 期：前期…4月1日～9月23日 後期…9月24日～翌年3月31日

休業日：

- ① 日曜日および土曜日（授業調整日除く）
- ② 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（祝日授業日を除く）
- ③ 春季休業 3月20日から4月7日まで
- ④ 夏季休業 8月10日から9月23日まで
- ⑤ 冬季休業 12月24日から1月7日まで
- ⑥ その他学長が必要と認めた日

詳しい授業期間および試験期間等は、各年度当初に定められる「学事日程」によります。「学事日程」は、毎年度、本学 Web サイトなどで確認してください。ただし、担当教員が必要と認めたときは、その他の期間に授業や試験が行われることがあります。

3. 授業時間

時限	時間
1 時限	09:00-10:30
2 時限	10:45-12:15
3 時限	13:15-14:45
4 時限	15:00-16:30
5 時限	16:45-18:15

4. 授業科目の単位、単位制

大学における授業科目の単位においては、1 単位の授業科目を **45 時間の学修***を必要とする内容をもって構成することを標準としています。単位の計算方法は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して決定します。

国際基幹教育機構開設科目においては次に掲げる基準により単位数を計算します。**各科目の授業の方法および単位数の詳細は、「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認してください。**

科目区分	授業の方法	1 単位あたりの 授業時間数	単位数
総合教養科目	講義	15	2
初年次教育科目	演習	15	2
情報リテラシー科目	講義・演習	15	2
外国語科目	実習	30	1～2
特例科目	実習	30	1
健康・スポーツ科学科目	講義	15	2
	実習	30	1
基礎教育科目	講義・演習	15	2～4
	実験	30	1
資格科目	講義・演習	15	1～2
	実習	30	2～4

* 大学において1単位の修得には「45 時間」の学修が必要であり、その際の「1 時間」は実際の「45 分」に相当します。すなわち、「2 時間」は 90 分授業（1 時限）に相当します。

したがって、2 単位を修得するためには「90 時間」学修することが基本となっており、授業を受けるだけでは不十分です。2 単位の修得には、毎週「2 時間」の講義の前後に「2 時間」の予習と「2 時間」の復習をすることが前提となっています。この前提に基づいて、授業では多くの課題（宿題）が課せられることがあります。大学では、常に予習、復習を行いながら授業を受けることが履修の基本であることを忘れないでください。

5. 履修課程と履修上の注意

(1) 基幹教育科目…詳細は「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」に記載しています。

基幹教育科目は、総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、特例科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれています。

(2) 専門科目…詳細は各学部・学域等発行の『要覧』を参照してください。

専門科目においては、各学部・学科、学域・学類の専門科目に加えて、学部等によっては共通科目を置き、それぞれの学問分野で共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の修得等を目指します。専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択自由科目の区分は、所属学科等の標準履修課程表を参照してください。

(3) 資格科目…詳細は『教職課程の手引』を参照してください。

教育職員免許状の取得に必要な教職科目を資格科目といいます。この科目の単位は進級要件や卒業要件の所要単位に含めることはできません。教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程に関する説明会に必ず出席し、『教職課程の手引』等を熟読してください。

(4) 副専攻科目…詳細は『副専攻ガイド』を参照してください。

副専攻とは、学生が所属する学部・学域の主専攻に加え、その区分を越えて主体的に興味、関心のある分野を学修する制度です。副専攻のために特別に開設した科目を副専攻科目といいます。

(5) 必修、選択および自由科目の区分

科目は必修、選択、自由科目の種類に区別され、各学部・学科等の定める要件を満たして履修する必要があります。

- 「必修科目」…所属学科・学類等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目。
- 「選択科目」…学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目。(選択必修科目を含む。)
- 「自由科目」…履修できるが卒業要件に算入しない科目。

(6) 遠隔授業について

一部授業は、授業支援システム (Moodle) 等によりオンラインで行うことがあります。

(7) 集中講義について

週1回の授業ではなく、短時間で授業を行う集中講義を開講することがあります。集中講義の開講日については、学生ポータル (UNIPA) により事前に周知します。集中講義の履修登録については、それぞれ前期・後期の履修登録期間中に登録してください。履修登録期間の時点で希望する集中講義の開講日が未定の場合でも、履修希望者は必ず履修登録をしてください。

(8) 履修に関する相談について

① オフィスアワー

各授業担当教員は、オフィスアワーを設定しています。これは、指定された曜日・時間には、事前に予約なしでも学生が教員のところに訪問し、履修に関することや授業中の疑問などを解決するための相談ができる時間のことです。なお、メールまたは授業支援システム (Moodle) 等で対応する場合がありますので、各授業のシラバスを参照し、大いに活用してください。

② その他相談窓口について

国際基幹教育機構開設科目については、本冊子やシラバスを参考にし、不明点等は基幹教育担当に相談してください。履修全般に関することについて相談等がある場合は、各学部・学域教務担当または担当教員等に相談してください。

(9) 科目名称

科目名称の末尾に数字あるいは英字等の表現がある科目は、以下のルールに基づいています。

- 「〇〇論 1、2～」：科目内容に順序性がある科目群について使用します。ただし、必ずしも「1」の履修が「2」の履修の前提条件になっているとは限りませんので、履修にあたっては「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認するようにしてください。
- 「〇〇論 A、B～」：科目内容に順序性がない科目群について使用します。

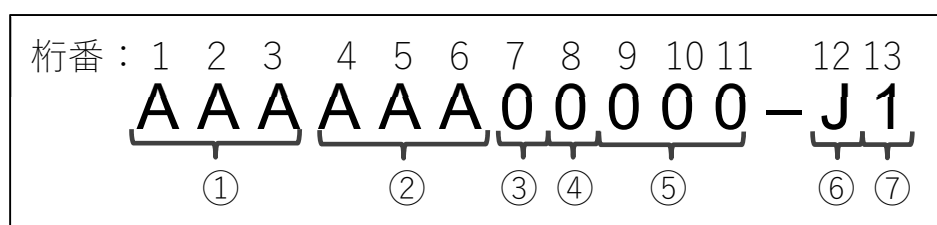
(10) キャンパスをまたぐ授業の履修

原則として、国際基幹教育機構開設科目は、各学部・学域の主たる学びのキャンパスで開講される科目を履修してください。ただし、再履修科目、資格科目、副専攻科目、その他各学部・学域において必要と認められる科目については、主たる学びのキャンパス以外のキャンパスでの履修が許可されることがあります。

なお、個人的都合による理由で主たる学びのキャンパス以外の科目を履修することはできません。主たる学びのキャンパスについては、『履修登録の手引』を参照してください。

6. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、教育課程の体系性を示すために、科目に記号と番号を組みあわせて付与することによって、科目の学問分野、カリキュラム内での位置づけを示す仕組みです。本学では、科目の属性に応じて、アルファベットと数字を組み合わせた13桁で構成された番号を、下記のとおり①開設部局・②学問分野・③科目レベル・④科目区分・⑤連番・⑥使用言語・⑦授業形態として各科目に付番しています。詳細は本学Webサイトをご覧ください。



7. 履修登録

(1) 履修登録

① 学生ポータル (UNIPA) による履修登録

科目を履修するにあたっては、各学期はじめの定める期日まで(4月上旬・9月中旬)に学生ポータル (UNIPA) より履修登録をする必要があります。履修を考えている科目は全て履修登録期間に登録してください。

② 登録上の諸注意

- 本冊子の「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」および各学部・学域の『要覧』に記載されている標準履修課程表などをよく確認して登録してください。不合格となった科目の再履修は原則として次年度以降となりますが、一部の前期開講科目については、同一年度の後期に再履修できる場合があります。
- 同一時限に、2科目以上を重複して履修登録することはできません。
- 既に単位を修得した科目を再び履修することはできません。
- 履修登録できる単位数には上限が設定される場合があります。詳しくは「9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」の項目を確認してください。

③ 履修登録の確認

履修登録の締め切り後の履修登録確認日・抽選結果発表日に、学生ポータル (UNIPA) の「抽選希望登録対象一覧」画面および「学生時間割表」画面上にて抽選科目の抽選結果および履修登録内容の確認が可能になります。履修登録確認日・抽選結果発表日に登録内容を点検し、希望どおり正しく登録されているか確認してください。特に、エラーが出ている科目については、履修登録修正期間内に修正してください。

なお、抽選科目については、履修登録修正期間中に科目の追加・削除はできません。詳しくは (2) 抽選科目を参照してください。

※ 履修登録のスケジュール等について、詳しくは『履修登録の手引』を参照してください。

(2) 抽選科目

基幹教育科目のうち、総合教養科目、初年次教育科目、外国語科目 (初修外国語)については、抽選希望登録が必要な科目です。登録方法は、『UNIPA 操作マニュアル (学生用)』を参照してください。抽選結果の発表日に、抽選結果および登録内容を確認してください。

なお、当選した科目は必ず履修してください (例外として、GPA 対象科目の履修中止制度により、履修中止が認められる場合があります)。

抽選結果発表後に、追加登録可能な科目については、学生ポータル (UNIPA) および掲示板に掲出します。

各科目区分における詳しい情報は、「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を参照してください。

(3) クラス指定

基幹教育科目のうち、情報リテラシー科目、外国語科目 (英語)、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目については、クラス指定があります。学生ポータル (UNIPA) に各学部・学域別にクラス指定の表を掲載しますので、履修登録期間中に、該当クラスを履修登録してください。なお、登録方法は、『UNIPA 操作マニュアル (学生用)』を参照してください。

(4) シラバス

シラバスには、カリキュラムにおける科目の位置付けや授業の方法、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価の方法等が記載されています。履修登録にあたっては、授業時間割・シラバス等を確認し、自身の学習計画を立ててください。

8. 成績評価・試験

(1) 成績評価方法・単位の修得

履修科目の成績は、シラバスで科目ごとに示されている方法で各授業担当教員によって評価され、合格した科目に単位が与えられます。成績の評語については「9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」で記載します。成績は学生ポータル (UNIPA) で確認することができます (定められた期間を除く)。

(2) 定期試験

単位の認定は基本的に試験の成績によって行われますが、試験を行わず、レポートや平常の成績等によって単位認定が行われることもあります。

試験を実施する場合は、原則として、授業期間終了後 (試験期間) に実施します。試験の時間割は学生ポータル (UNIPA) を確認してください。

(3) 追試験・再試験

〔追試験〕

試験を欠席した理由が以下の項目に該当する場合には、追試験を行うことがあります。

- ① 学生が病気または負傷した場合
- ② 学生の親族が死亡した場合 (2 親等以内の親族または同居の親族に限る。)
- ③ 公共交通機関の遅延による場合
- ④ 学生が国家試験等を受験する場合
- ⑤ 学生が裁判員裁判へ参加する場合
- ⑥ その他やむを得ないものと認められた場合

追試験の受験を希望する学生は、所定の期間内に証憑書類を添えて国際基幹教育機構 (基幹教育担当) まで、願い出る必要があります。追試験の実施有無や受験方法等については、基幹教育担当まで問い合わせてください。

〔再試験〕

国際基幹教育機構開設科目の定期試験で不合格になった場合、再試験の実施はありません。

9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制

(1) 成績評語と GPA 制度

履修科目の成績は、下表の基準にもとづき評価され、発表は評語により行います。履修登録した各科目の成績に GP (Grade Point) を割り当てて、その平均を取ったものを GPA (Grade Point Average) といいます。学修の達成度を客観的に評価するための指標として学期ごとに算出され、卒業するために必要な単位をただ修得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としています。GPA は学期ごとに、以下の数式により算出されます。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(当該期で得た科目の GP 値} \times \text{その科目の単位数)の合計}}{\text{*当該期に履修登録した総単位数}}$$

(*GPA 対象科目のみ)

評語	基準	100点方式による素点等	GP
AA	授業目標を大きく上回って達成できている	90点以上 100点以下	4
A	授業目標を上回って達成できている	80点以上 90点未満	3
B	授業目標を達成できている	70点以上 80点未満	2
C	最低限の授業目標を達成できている	60点以上 70点未満	1
F	最低限の授業目標を達成できていない	・60点未満 または ・成績評価基準に基づく評価をしない科目で不合格となった科目	0
T (取消)		試験等での不正行為	0
N (認定)		単位認定された科目	対象外
P (合格)		・成績評価基準に基づく評価をしない科目で合格となった科目	対象外

GPAの対象となる科目は、原則として履修登録した全ての科目です。ただし、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目等の自由科目）、上表の「単位認定された科目」、「成績評価基準にもとづく評価をしない科目で合格となった科目」はGPAから除かれます。また、成績証明書には、発行した時点での通算GPAが記載されます。

通算GPAは、以下の数式により算出されます。

$$\text{通算 GPA} = \frac{(\text{各学期で得た科目の GP 値} \times \text{その単位数}) \text{の合計}}{\text{*各学期で履修登録した単位数の合計}}$$

(*GPA 対象科目のみ)

なお、履修登録の締切以降は、原則として変更はできません。ただし、以下に示す条件により履修を続けることが困難な場合、特別に履修中止を認める場合があります。

- ① 実際の授業の内容が公開されている「シラバス」と本質的に異なっている場合
- ② 授業についていけるだけの知識不足が発覚した場合

手続きの時期や方法など詳細については『履修登録の手引』を確認してください。

(2) CAP 制

学期内で履修する科目について予習・復習の時間を確保するために、各年度・各学期に履修登録できる総単位数には、上限が設けられています。このことをCAP制（キャップ制）といいます。

1年次の履修上限は年間50単位未満、前期25単位以下、後期25単位以下の範囲で定められていますので、所属学部・学域の『要覧』で確認してください。

原則として、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目、自由科目）はCAP制の対象外となります。卒業の所要単位に算入される科目の中で、例外的にCAP制対象外となる科目もあります。国際基幹教育機構開設科目のCAP制対象外科目について、詳しくは本冊子の「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認してください。

10. 外国語科目（英語）の単位認定および（初修外国語）初級履修免除制度について

(1) 外部試験等による英語の単位認定

TOEIC 等の外部試験において一定レベル以上のスコアや資格を有している場合、英語科目の単位を認定する制度があります。単位認定を希望する学生は、指定する日までに基幹教育担当までスコア原本（申請条件に示す資格取得証明書、公式証明書等）を提出してください。申請に使用できる外部試験のスコアは、過去1年以内のものに限ります。

なお、認定された科目は履修することができないので注意してください。

● 認定可能科目：

University English 1A、2A、3A（必修）、TOEIC、TOEFL A、B（選択）の6科目

※ ただし、検定試験は受験していないが、国際教育機関の認定により入学した学生、海外で大学教育を終えている学生などについては、英語教員の面接を経て1B、2Bも認定される場合があります。詳細については申請をする際に問い合わせてください。

● 認定上限単位数 : 6単位

● 申請時期 : 4月および7月（年2回）

● スコアの有効期間 : 1年間

● 申請条件：

- ケンブリッジ英検 FCE170 以上
- 英検 1級
- IELTS オーバーオールバンドスコア 6.0 以上
- TOEFL iBT 83 以上
- TOEIC L&R 865 以上

● 申請した学生に対し、英語教員が面接を行い、最終的に認定するかどうか判断を行います。

(2) 初級履修免除制度

初修外国語（朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語）を学んだことのある学生で、指定する必要なレベル以上と認められる場合は、1年次の入門初級レベルの科目の履修を免除し、中級レベルの科目から履修できます。詳細は「入学手続きのしおり」同封の「朝鮮語（韓国語）・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語を学んだことのある人へ」を参照してください。

ただし、初修外国語科目はゼロから始める外国語科目という意味であり、自分の第一言語（母語）を初修外国語科目として履修することはできません。また、**1年次科目の履修を免除するだけで、単位が認定されるわけではありません。**

申請した学生に対し、各言語の教員が面接を行い、最終的に入門初級科目の履修を免除するかどうか判断を行います。

11. 定期試験受験心得

- (1) 試験開始までに入室し、試験監督者の指示に従ってください。
- (2) あらかじめ履修登録した科目のみ、受験することができます。
- (3) 受験に際しては、必ず学生証を持参し、着席した机の上に置いてください。学生証を忘れた場合は、事前に指定された場所で仮受験票の交付を受けてください。これを怠った場合は、受験を許可しないことがあります。
- (4) 試験を開始して30分経過後の遅刻者は受験を許可されません。
- (5) 30分を経過しなければ退出は許されません。
- (6) 机の上には、持ち込みを許可されたもの（教科書、ノートなど）がある場合を除いて、学生証、筆記具以外を置いてはいけません。
- (7) 携帯電話などの電子機器は、特に許可された場合を除き、電源を切り、かばんの中に

- 入れてください。また、音を発する物（たとえば時計のアラーム）などで、他人に迷惑をかけてはいけません。
- (8) 受験中、学生相互間の物品（筆記具を含む）の貸借は一切認められません。また、私語をしてはいけません。
 - (9) 配付された答案用紙には、所定の箇所に、学籍番号、氏名などを必ず記入してください。
 - (10) 答案用紙は試験監督者から配付されたものを使用し、書き損じた答案用紙も全て提出してください。配付されたものは、許可されたもの以外は持ち帰ってはいけません。
 - (11) 試験監督者が不正行為を認めた場合には、受験の停止、退室などを命ずることがあり、受験者はこれに従わなければいけません。
 - (12) 対面試験と同様に遠隔試験についても一切の不正行為を禁じます。
 - (13) レポート試験について、次の行為に対して不正行為とみなします。
 - ① 他者のレポートの一部または全部を書き写す行為
 - ② 他者にレポート作成を依頼する行為
 - ③ 他者に依頼されて本人の代わりにレポートを作成する行為
 - ④ レポートのデータや資料等を捏造または改ざんする行為
 - ⑤ その他、上記の不正行為に準ずる行為
 - (14) 試験（遠隔試験、レポート試験も含む）で不正行為を行った学生に対しては、原則としてその試験実施日が属する学期に履修中の科目の成績を全て無効とします。
 - (15) 不正行為を行った学生は、学則に基づいた懲戒処分（訓告、停学、退学）の対象になる事もあります。
 - (16) いかなる試験においても、自己または他人のために不正行為をしてはいけません。

12. 成績評価についての異議申立

学生は、その学期の成績評価について、次のような場合に異議を申し立てることができます。

- (1) 成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの
- (2) シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価結果等について疑義があるもの

国際基幹教育機構開設科目について、異議申立を行う場合、学生ポータル（UNIPA）に掲載する申立期間内に基幹教育担当へ申し出てください。なお、これは成績評価に納得がいかない者が、問い合わせ、また異議申立を行う制度ではないので、注意してください。

13. 休講・欠席

- (1) 気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講および定期試験の延期措置について

①気象条件の悪化による授業の休講について

大阪市、堺市、羽曳野市、泉佐野市のいずれかまたはこれらの市を含む地域に暴風警報、または特別警報が発令されているときは原則として全ての授業を休講とします（定期試験を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部または一部の授業を行います。

授業中または試験中に、暴風警報または特別警報が発令された場合は、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から授業は休講とします。

また、学外実習などは、前記事項を踏まえ担当教員の指示により授業を行わないことがあります。（実習施設の所在地を含む地域に暴風警報または特別警報が発令されたときは実習を行いません）

なお、気象条件の悪化による授業の休講は、対面授業においてのみ適用されるものであり、遠隔授業においてはこの限りではありません。

(注意事項) 上記にかかわらず、暴風警報、特別警報が発令されたときや居住地域に避難勧告が発令されたときは、自らの身の安全を最優先に行動してください。

②交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関のいずれかが運休(事故等による一時的な運行停止を除く)を行った場合、授業は原則として休講とします(定期試験を含みます)。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部または一部の授業を行います。

なお、交通機関の運休による授業の休講は、対面授業においてのみ適用されるものであり、遠隔授業においてはこの限りではありません。

- 杉本キャンパス
 - ・ JR 阪和線全線
 - ・ JR 大阪環状線全線および Osaka Metro 御堂筋線全線が同時
- 中百舌鳥キャンパス
 - ・ 南海高野線全線
 - ・ JR 阪和線全線および南海本線全線が同時
 - ・ JR 大阪環状線全線および Osaka Metro 御堂筋線全線が同時

国際基幹教育機構開設科目が主に行われる杉本キャンパスと中百舌鳥キャンパスの取り扱いは上記の通りです。

杉本・中百舌鳥キャンパス以外で開講される国際基幹教育機構開設科目(2年次以上対象)については、各学部・学域の『要覧』記載の各キャンパスにおける「交通機関の運休による授業の休講について」の項目を参照してください。

③遠隔授業(同時双方向型に限る)において授業支援システム(Moodle)が停止した場合の休講について

授業支援システムが停止した場合は同時双方向型の授業に限り、原則として休講とします(授業担当教員から履修者へ個別の連絡がある場合は除きます)。ただし、別表のとおり授業支援システムの復旧の時刻により、全部または一部の授業を行います。また、遠隔授業(オンデマンド型)については休講の措置を行いません。

(別表)

●杉本・中百舌鳥キャンパス

運行再開・警報解除・ 授業支援システムの復旧の時刻	休講となる授業	実施する授業
午前7時以前	—	全授業
午前11時以前	午前開始の授業	午後開始の授業
午前11時を過ぎても解除・復旧 されない場合	全授業	—

④その他注意事項

対面授業をオンライン中継する授業の取り扱いについては、対面授業を行っているキャンパスの授業が休講される場合にも同様に休講とします。

上記に挙げる理由以外にも、自然災害が発生した際は休講にする場合があります。

なお、午前9時以降における授業の実施については、上記の取扱いを原則としつつ、状況に応じて例外の判断をする場合があります。その際には、学生ポータル(UNIPA)により周知します。

(2) 授業欠席時の取扱いについて

授業を欠席する場合、欠席理由（病気、各種実習、介護等体験、クラブ活動、忌引等）の如何を問わず原則として「欠席届」を授業担当教員に提出してください。授業科目の成績評価等の配慮については、授業担当教員の裁量によります。「欠席届」は、学生ポータル（UNIPA）>学生Navi>「授業・履修」からダウンロードできます。

また、「8. 成績評価・試験」の「(3) 追試験・再試験」に示す理由によって定期試験を欠席する場合は追試験を行うことがありますので、各科目の開設部局（各学部・学域等教務担当または基幹教育担当）に相談してください。

なお、以下の場合の特例として通常と対応が異なります。

- 学校感染症に指定されている感染症（季節性インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等）に罹患した場合、出席停止となり、速やかに大学に報告が必要となります。報告方法については『学生生活ガイドブック』で確認してください。
- 裁判員制度に伴う裁判に出席する場合
裁判員制度により裁判員（候補者）に選出され、裁判所に出頭するために授業を欠席しなければならない場合は、欠席届に加えて、裁判所からの呼出状(写)等を授業担当教員に提出することで、成績評価等についての配慮の対象となります。配慮の内容については、授業担当教員の裁量によります。

14. 修学上の配慮・支援

疾病・障がいおよび社会的障壁を有する学生で個別具体的な修学上の配慮・支援を必要とする場合は、アクセシビリティセンターに申し出てください。

15. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入

学ぶ力（学習自己管理能力）を高めること、すなわち、

- 目標を意識しながら、学ぶこと
- 自分自身の学びを見つめる（ふり返る）目を養うこと
- 学びについて得た気づきを、次の学修に生かすこと

を主な目的として、半期ごとに、教育学習支援基盤「ていら・みす」において、ポートフォリオ（学修記録）への記入を行います。「ていら・みす」へは、学生ポータル（UNIPA）からアクセスしてください。

III. 科目の紹介・科目一覧



III. 科目の紹介・科目一覧

次頁より、国際基幹教育機構が開設する科目の紹介・科目一覧〔2022年度開講予定科目〕を、科目区分ごとにまとめています。なお、各科目区分における学生ポータル (UNIPA) での抽選申請、クラス指定の有無、同一年度における同一名称科目の再履修の可否は下表のとおりです。

クラス指定「あり」の場合、学生ポータル (UNIPA) にて掲示するクラス分け表を参照のうえ、指定のクラスを履修してください（初修外国語科目を除く）。

同一年度における同一名称科目の再履修が「不可」の科目の再履修は、**原則、翌年度以降**になります。その際、クラス指定がある科目は、所属学部・学科、学域・学類に配当されたクラスを履修してください。

〔表：抽選・クラス指定・同一年度の再履修について〕

科目区分	学生ポータル (UNIPA) 抽選の有無	クラス指定の有無	同一年度内の再履修
総合教養科目	あり	なし	不可
初年次教育科目	あり	なし	不可
情報リテラシー科目	なし	あり	不可
英語科目（必修）	なし	あり	可 (後期に再履修クラスを履修)
英語科目（選択）	なし	なし	不可
初修外国語科目（必修）	あり (コースおよび言語を選択)	あり (抽選後、大学にてクラス割り当て)	一部のコースは可 (後期に再履修クラスを履修)
初修外国語科目（選択）	なし	なし	不可
特例科目	なし	なし	不可
健康・スポーツ科学科目	なし	あり	不可
基礎教育科目	なし	あり	不可

1. 総合教養科目

〔カリキュラム概要〕

総合教養科目は、大学における学修・研究全般の基礎となる論理的思考力や表現力、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる実践的な倫理的態度、異なる地域・時代の他者や文化に対する尊重と共感の姿勢に裏打ちされた教養の修得を目的とするもので、全学的協力体制のもとに展開されます。

総合教養科目には、学び・考え・実践に結びつける価値のあるさまざまな主題に分かれた科目が用意されています。個々の問題関心に沿ってそれらを履修することによって、履修者はそれぞれの専門領域を深めていく際に求められる基礎的知識や技法を修得できるだけでなく、生涯を通じて柔軟に学び続けることの意義を理解し、絶え間なく変化する時代において世界市民として活躍するために欠かせない確かな教養と寛容の精神とを培うことができます。

〔科目の構成〕

総合教養科目には、思考力、表現力、判断力の基盤の上に、幅広い知識を総合的に活用できる能力を身に付けるための授業科目が用意されています。各科目はそれぞれの役割や特性に従って、「Ⅰ 基礎科目」、「Ⅱ 主題科目」、「Ⅲ キャリアデザイン科目」、「Ⅳ 数理・データサイエンス科目」の4つに分類されています。

- ア) 「Ⅰ 基礎科目」群では、「A 人文科学」・「B 社会科学」・「C 自然科学」・「D 大阪学」の区分を設け、諸学の基礎となる学問分野の代表的な科目を配置します。
- イ) 「Ⅱ 主題科目」群では、「A SDGs」・「B 人間・都市・社会」・「C 歴史と文化」・「D 自然と情報」という4つの区分の下に、個別的テーマを掘り下げて論じる科目を開講します。
基礎科目と主題科目では、それぞれの専門分野の教員が担当する多様な授業を通じて、幅広い学問分野を俯瞰しながら教養を身につけ深めていくことができます。
- ウ) 「Ⅲ キャリアデザイン科目」群には、キャリアデザイン能力の涵養、人権、共生、他者理解、インターンシップ等について学ぶ科目が配置され、初年次のみならず、後年次での履修にも適した内容となっています。この科目群では、キャリアデザインに求められる思考法、学び方、社会とのかかわり、ビジネス計画に関わる科目を配置し、学生が社会的および職業的自立を図るために必要な能力を培うことを目的として開講されます。
- エ) 「Ⅳ 数理・データサイエンス科目」群では、これからの時代の基盤となるデータサイエンスの基礎を身に付けるため、AIを使用する上で基本となる数学的モデリングを具体的な例で学ぶ科目、データサイエンスに求められる統計学の基本的な知識や分析方法を、応用事例を通じて学ぶ科目、データサイエンスを課題解決に向けたデータに基づく知識発展のサイクルと捉え、そのサイクルを構成するデータの記述、可視化、取得、管理、加工、解析などの要素技術と、サイクル中でのそれらの役割について学ぶ科目が開講されます。
- 履修にあたっては、学生ポータル (UNIPA) による抽選希望登録が必要です。詳細は、『履修登録の手引』『学生ポータル (UNIPA) 操作マニュアル』を参照してください。
- 杉本キャンパス開講と中百舌鳥キャンパス開講の科目がありますが、主たる学びのキャンパスで開講される科目を履修してください。
- 同一年度に同一名称科目を再履修することは原則としてできません。ただし、例外として認められる場合がありますので、詳細は、『履修登録の手引』を参照してください。

〔2022年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考	
				講義	演習	実験		杉本		中百舌島			
								前期	後期	前期	後期		
基礎科目	人文科学	哲学入門	2	2	○			全	○			○	
		倫理学入門	2	2	○			全	○		○	○	同一年度内の再履修不可
		日本史の見方	2	2	○			全	○			○	
		東洋史の見方	2	2	○			全	○		○	○	同一年度内の再履修不可
		西洋史の見方	2	2	○			全	○				
		考古学入門	2	2	○			全		○		○	
		言語学入門	2	2	○			全			○		
	日本語学入門	2	2	○			全				○		
	社会科学	日本国憲法	2	2	○			全	○	○	○	○	同一年度内の再履修不可
		心理学入門	2	2	○			全	○		○	○	同一年度内の再履修不可
		現代社会学入門	2	2	○			全		○		○	
		現代経済学入門	2	2	○			全		○		○	
		現代地理学入門	2	2	○			全		○		○	
		文化人類学入門	2	2	○			全	○			○	
		法学入門	2	2	○			全		○		○	
		政治学入門	2	2	○			全	○		○		
		ジェンダー論入門	2	2	○			全	○		○		
	自然科学	科学技術と社会	2	2	○			全			○	○	同一年度内の再履修不可
		数学への招待	2	2	○			全		○		○	
		物理学への招待	2	2	○			全	○	○			同一年度内の再履修不可
		化学への招待	2	2	○			全	○	○			同一年度内の再履修不可
		生物学への招待	2	2	○			全	○		○		
		生物化学への招待	2	2	○			全	○				
		地球学への招待	2	2	○			全		○	○	○	同一年度内の再履修不可
	大阪学	歴史のなかの大阪	2	2	○			全		○			
		関西文学論	2	2	○			全			○		
		地域文化学	2	2	○			全				○	
大阪の自然		2	2	○			全		○				
大阪の都市づくり		2	2	○			全	○		○			
大阪落語への招待		2	2	○			全	○					
主題科目	SDGs	技術と環境	2	2	○			全		○			
		人体を考える	2	2	○			全	○				
		行動の生理科学	2	2	○			全			○		
		国際開発の課題	2	2	○			全		○	○		
		人間と居住環境	2	2	○			全	○				
		環境と経済	2	2	○			全		○		○	
		生命と進化	2	2	○			全		○			
		現代の医療	2	2	○			全	○				
		健康へのアプローチ	2	2	○			全	○				
		生命と環境	2	2	○			全		○			
		現代社会と健康	2	2	○			全	○	○			同一年度内の再履修不可
	自然環境学概論	2	2	○			全				○		
	環境・生命・倫理	2	2	○			全			○			
	人間・都市・社会	哲学的人間学	2	2	○			全			○	○	同一年度内の再履修不可
哲学と社会		2	2	○			全			○			
人間と宗教		2	2	○			全	○			○		
共生社会と宗教		2	2	○			全			○			
教育と文化		2	2	○			全		○	○			
心理学・認知科学と人間	2	2	○			全		○					

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考
				講義	演習	実習		杉本		中百舌島		
								前期	後期	前期	後期	
人間・都市・社会 主 題 科 目	文化と社会の心理	2	2	○			全		○		○	
	認知のしくみ	2	2	○			全		○			
	行動と学習の心理	2	2	○			全		○		○	
	教育と発達心理学	2	2	○			全	○				
	子どもの生活と健康教育	2	2	○			全				○	
	社会科学のフロンティア	2	2	○			全		○			
	思想と社会	2	2	○			全			○	○	同一年度内の再履修不可
	経済学の歴史と思想	2	2	○			全			○		
	戦争と人間	2	2	○			全	○			○	
	世界のなかの日本経済	2	2	○			全	○				
	現代日本の政治と経済	2	2	○			全				○	
	現代の経営	2	2	○			全	○				
	国際社会と法	2	2	○			全				○	
	国際社会と政治	2	2	○			全		○		○	
	暮らしと政治	2	2	○			全			○		
	都市的世界の社会学	2	2	○			全		○			
	現代文化の社会学	2	2	○			全		○	○		
	メディアの社会学	2	2	○			全	○				
	現代の社会問題	2	2	○			全		○			
	家族と社会	2	2	○			全		○		○	
	医療と社会	2	2	○			全			○		
	スポーツと社会	2	2	○			全			○		
	測定・実験で学ぶ人間と社会	2	2	○			全	○				
	観光研究入門	2	2	○			全	○				
	都市の地理学	2	2	○			全	○				
	都市の社会史	2	2	○			全		集中			
	都市生活と人間福祉	2	2	○			全	○				
	バリアフリー論	2	2	○			全			○		
	現代都市論	2	2	○			全		○	○		
	都市の経済とビジネス	2	2	○			全		○			
	都市・地域政策	2	2	○			全		○			
	国際地域経済と都市	2	2	○			全		○			
	都市研究の最前線	2	2	○			全		○		○	
	コミュニティ防災	2	2	○			全	○				
	現代の部落問題	2	2	○			全	○		○		
	メディアと人権	2	2	○			全	○				
	部落解放のフロンティア	2	2	○			全		○			
	部落差別の成立と展開	2	2	○			全		○			
	グローバル化と人権	2	2	○			全		○	○		
	障がい者と人権A	2	2	○			全	○				
障がい者と人権B	2	2	○			全		○				
企業と人権	2	2	○			全		○				
地球市民と人権	2	2	○			全	○					
労働と人権	2	2	○			全	○					
平和と人権	2	2	○			全		○				
ジェンダーと現代社会	2	2	○			全		○		○		
クイアスタディーズ	2	2	○			全	○					
エスニック・スタディ	2	2	○			全	○					

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考
				講義	演習	実習		杉本		中百舌鳥		
								前期	後期	前期	後期	
主題科目 歴史と文化	歴史を学ぶとは	2	2	○			全				○	
	日本社会の歴史	2	2	○			全		○			
	東洋社会の歴史	2	2	○			全		○	○	○	同一年度内の再履修不可
	西洋社会の歴史	2	2	○			全		○			
	現代の歴史	2	2	○			全		○			
	ことばの歴史	2	2	○			全		○	○		
	英語学	2	2	○			全				○	
	世界のなかの英語	2	2	○			全				○	
	ヨーロッパの多言語社会	2	2	○			全				○	
	日本の古典文学	2	2	○			全	○	○	○		同一年度内の再履修不可
	物語文学を読む	2	2	○			全				○	
	世界の文学	2	2	○			全	○			○	
	中国古典文学への招待	2	2	○			全				○	
	ヨーロッパの文学	2	2	○			全			○		
	文学と社会	2	2	○			全				○	
	日本の近代文学	2	2	○			全	○		○		
	近代社会と読書	2	2	○			全				○	
	芸術の世界	2	2	○			全	○				
	東洋美術史	2	2	○			全			○		
	美術史	2	2	○			全	○			○	
	音楽の諸相	2	2	○			全	○				
	音楽と生活	2	2	○			全				○	
	造形と生活	2	2	○			全				○	
	アーツマネジメント	2	2	○			全	○				
	音楽と対話	2	2	○			全	○				
	コミュニケーションの諸相と文化	2	2	○			全			○		
	アイデンティティと文化	2	2	○			全			○		
	国際文化の視点	2	2	○			全				○	
	環境と文化	2	2	○			全	○				
	観光と文化	2	2	○			全		○			
	中国の思想	2	2	○			全				○	
	ヨーロッパ文化史	2	2	○			全				○	
	ヨーロッパ事情	2	2	○			全				○	
新西洋事情	2	2	○			全			○			
西洋社会文化史	2	2	○			全			○			
西洋宗教文化史	2	2	○			全			○			
西洋教育文化史	2	2	○			全			○			
フィランソロピー学入門	2	2	○			全			○			
比較文化社会論	2	2	○			全				○		
日本事情A	2	2	○			全	○		○			
日本事情B	2	2	○			全		○		○		
英語で学ぶ日本事情	2	2	○			全				○		

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考		
				講義	演習	実習		杉本		中百舌鳥				
								前期	後期	前期	後期			
主題科目	自然と情報	社会に生きる科学	2	2	○			全			○			
		現代科学と人間	2	2	○			全	○		○			
		心と脳	2	2	○			全		○				
		行動と視機能	2	2	○			全				○		
		データリテラシー	2	2	○			全		○				
		植物の科学	2	2	○			全	○			○		
		地図と地理情報	2	2	○			全		○				
		情報と社会	2	2	○			全		○				
		社会におけるネットワーク	2	2	○			全				○		
		社会と統計	2	2	○			全		○				
		植物と人間	2	2	○			全	集中				CAP対象外	
		コンピューターグラフィックス概論	2	2	○			全				○		
		工学研究の最先端	2	2	○			全				集中	時間割外／CAP対象外 ／UNIPA抽選申請対象 外科目	
		創薬科学のすすめ	2	2	○			全	○			○		
植物園で学ぶ植物の多様性	2	2	○			全	集中				CAP対象外			
キャリアデザイン科目	キャリアデザイン科目	現代社会におけるキャリアデザイン	2	2	○			全		○		○		
		キャリアと実践	2	2	○			全				集中	時間割外／CAP対象外	
		国際活動とキャリア	2	2	○			全				集中	時間割外／CAP対象外 ／UNIPA申請対象外	
		大学でどう学ぶか	2	2	○			全	○			○	○	同一年度内の再履修不可
		現代社会と大学	2	2	○			全				○		
		市民・学生のための大学評価論	2	2	○			全		○				
		世界の大学と学生	2	2	○			全				○		
		グローバル経営論	2	2	○			全		○				
		社会と会計	2	2	○			全		○				
		国際ビジネス	2	2	○			全	○					
		学びのデータから見る大学	2	2	○			全		○				
		プレゼンテーション技法	2	2	○			全	○				○	
		研究者の世界へ	2	2	○			全		○				自由科目／CAP対象外
数理・データサイエンス科目	数理・データサイエンス	数理・データサイエンス基礎A	2	2	○			全	○			○		
		数理・データサイエンス基礎B	2	2	○			全	○			○		
		数理・データサイエンス基礎C	2	2	○			全						〈調整中〉

●総合教養科目の配当年次は1年次です。

2. 初年次教育科目

〔カリキュラム概要〕

大学は教育機関であると同時に研究機関でもあります。そのような場所での学びには、研究的な要素が重要になりますし、それが大学で学ぶことの醍醐味でもあります。このことを具体化した初年次教育科目として、1年次全学生必修の「初年次ゼミナール」を開講します。

総合大学である大阪公立大学の教員による多様なテーマのゼミナールが約200クラスあり、15名程度を基本とする少人数クラスで、様々な学部・学域に所属する学生が交流・協同して、能動的な学修を行います。

グループディスカッションを通じた課題発表、プレゼンテーションやレポートによる自己表現の経験、異なる視点との出会いによる自己の振り返り、複数の学部・学域の学生と教員とによる多様な視点の交換を行い、時には唯一の正解のない問題とも格闘することで、「大学でこそその学び」のためのスキルと主体的な学修姿勢を身につけてください。

〔科目の構成〕

- 初年次ゼミナールは、全ての学部・学域の学生にとって必修科目です。初年次ゼミナールの単位を修得しなければ卒業ができません。万一、1年次前期に単位を修得できなかった場合は2年次以降の前期に再履修クラスを履修する必要があります(ただし、開講クラス数は各キャンパス1~2クラス程度で、選択肢が大幅に限定されます)。
- 多くのクラスが開講されますが、そのうち1つを履修します(2つ以上履修することはできません)。
- 各クラスで取り上げるテーマはp.26~p.29の表のとおりです。履修を希望するクラスについて、より詳しい授業概要が知りたい場合は、学生ポータル (UNIPA) でシラバスを確認してください。
- 履修登録にあたっては、学生ポータル (UNIPA) による抽選希望登録が必要です。詳細は本冊子のp.7および『履修登録の手引』を確認してください。登録の期日もありますので、注意してください。
- 杉本キャンパスで開講するクラスと中百舌鳥キャンパスで開講するクラスがありますが、学生は主たる学びのキャンパス以外で開講されるクラスを履修することはできません。
- 初年次ゼミナール以外の必修科目や専門科目は、学部・学域ごとの時間割配置によって異なるため、初年次ゼミナールを履修できる曜日・時限は限定されます。所属学部・学域の時間割等で確認してください。
- 初年次ゼミナール、総合教養科目、初修外国語など抽選によって決定される科目は、当選すると取消や変更はできませんので、十分に検討して、確認したうえで抽選申請を行ってください。

〔履修上の注意〕

- クラスによっては、フィールドワークに行くための交通費や制作物を作るための材料費などの費用負担がある場合があります。
- 教室の外での活動を行うクラスもあります。万一の事故に備えて、各自で保険(学生教育研究災害障害保険〔学研災〕および同付帯保険や学生総合共済など)に加入しておいてください。

〔履修上のアドバイス〕

- 初年次ゼミナールはこれまで大阪府立大学で開講されてきました。大阪府立大学で初年次ゼミナールを履修した学生から、履修登録にあたってのアドバイスをまとめたものを、以下に掲載します。クラスの選択に際して、ぜひ参考にしてください。

【クラスの選び方について】

～自分の興味を踏まえて～

- ・まだ大学に入ったばかりで、専門的な事はよく分からないと思うので、自分が興味のあるものを調べよう。
- ・理系文系の区別なく、自分が興味深いと思うゼミを取ればいいと思います。

～広い視野を求めて～

- ・違う分野に入ると違う価値観があり、比較のおもしろい。
- ・自分の興味から外れているものも意外とおもしろい。興味がある分野以外から選ぶのもいい経験になる。
- ・自分の学部・学域にとらわれずに、興味を持ったゼミを選択したほうがいいと思う。もし、自分が思っていたのと違うゼミになっても必ず得られるものがあると思う。
- ・自分の専攻とは違う分野の授業を受けるよいきっかけとなるので、ぜひ積極的に参加して視野を広げて欲しい。

～人に惑わされないで～

- ・気になるものを選ぶべき。友達と話し合ったりせず、個人の方が、他の学部・学域の人と意見交換しやすいと思う（同じ価値観が2人いるとつまらないから）。
- ・友人の話も聞きましたが、どのゼミをとっても、きっと今後の役に立つ授業を受けられるだろうなと思ったので、少しでも興味をひかれたら、専攻の分野とは違ったゼミでも選んでみるといいと思います。

～よく考えて～

- ・1年次生では数少ない少人数のゼミなので、今後2年次、3年次、4年次等に履修するゼミへの第一歩となる非常に大切なものであるので、よく考えて選んでほしい。ゼミでは積極的に自分の意見を述べ、少しでも人前で自分の言いたいことをしっかりと明確に伝えられるスキルを養ってほしい。
- ・興味のあることを選ぶともっと詳しくなれる。興味のないことを選んでも新しい視点を得られる。と思うからじっくり選ぶべき。

～積極的な姿勢で～

- ・初年次ゼミで何をしようかと、自分で問題を調べ、発表するという姿勢はかわらないので、頑張ってください。

【授業の受け方について】

～積極的・能動的・主体的に～

- ・グループでの活動や、個人での活動であるが、「誰かやってくれるだろう」と思っていると何も進まず、発表直前にあわてなければならないので、自分から動いて、調べたり、話し合ったりすることが重要だと思う。
- ・他学部・学域の人と自分の専門以外のことについて調べ、話し合い、たくさんの力が身につく授業だと思います。知識、調べる力、表現する力、仲間との協調性。だから積極的に授業に参加して欲しいと思います。そうすればするほど得るものも大きいと思います。
- ・積極的な学習という点については、ある程度自由なので、自分が興味のあることを進んで発表できる場であると思う。「失敗できる」という意味でも貴重な場なので、今後のためにも有効に活用すべき。

～まじめに・一生懸命に～

・プレゼンをするためにグループで話し合ったり、実際にプレゼンすることは、本当にやりがいがあるので、一生懸命取り組んで欲しい。

・授業テーマがもし自分が興味の無いものだったとしても、その内容に一生懸命取り組むことにより、得られるものは大きく変わってくると思います。様々な視点からゼミの内容を考え、学んでください。

～自分の意見も他人の意見も大事に～

・自分の意見を主張できるいい時間です。

・他人の意見も聞くことで同じテーマでも違った切り口で見直すことができ、よい機会になります。

・自分から能動的に物事を重ねていくことが大切。ディスカッションでは自分の意見をしっかりと主張しながらも、他人の意見も受け止め、今後の調査に生かすことが大事。

【グループワーク・プレゼンテーションについて】

・いきなりプレゼンをしろと言われて戸惑うこともあると思いますが、思い切って一度発表してしまえば慣れます。積極的に質疑応答に参加することも非常に今後の為になるので、是非頑張ってください。

・できるだけたくさんの情報を納得いくまで集めることが大切だと思います。難しくて耳をすり抜けてしまうこともあると思うけれど、興味のストライクゾーンを自分で広げて、気になったことなどあればメモし、家に帰って調べてみるのも勉強だと思う。

・初年次ゼミナールでは「自分から」「学問をする」姿勢がとくに大切になってきます。プレゼンテーションでは「自分で」必要な情報を手に入れ、「自分で」それらをまとめ、「自分で」それらを他の人に伝えるということをしなければなりません。そして、他の人のプレゼンテーションを聞いて「これはどうなんだろう?」「私はこれについてこうと思いますが」といった疑問点や意見を持つことが大切です。

【初年次ゼミナールを受けてよかったこと】

～交友関係が広がる～

・チームワークはすごく重要です。初めて出会う他学部・学域の学生と、最初は戸惑うこともたくさんありますが、時間が経つにつれて、互いの距離がどんどん縮まっていきました。

・大学生になったのだから、自分から提案・企画・発表していく力を伸ばせる良い機会だと思います。他学部・学域の子と、これほどまでに深くコミュニケーションをとれる授業は他にありません。違う分野を専門とする人との会話は、とても楽しくて、刺激的です。

～将来役に立つ～

・人前で上手く話して、自分の言いたい事を効果的に人に伝える方法を学べます。積極的に参加するほど楽しめるし、プレゼン能力なども身につくと思うので、頑張ってください。

・大学での勉強に必要な、自分から積極的に調べようとする力や、社会へ出てからも役立つ、発表する力がつけられる絶好の機会です。同じゼミの受講生の中には、きっと話すのが上手な人がいるはずだから、そういう発表を見て、自分の意見にも活かして、上達してってください。

～知見が広がる～

・情報を集める時は、図書館やネットをフル活用しましょう。どちらも情報の宝庫です。本で得た知識をネットで調べたり、ネット上の意見の参考とされている本を図書館で探すなど、両方をリンクさせるのも手です。

～必ず得るものがある～

・初年次ゼミは抽選なので、自分の第一志望のものが受けられるとは限りません。しかし、どの講座であれ、必ず自分にとってプラスになります。私がそうでした。

・どのゼミの先生方も非常に熱心です。必ず得られるものがあります。

・自分の考えを誰にでもわかるように表現するのは難しいことだが、失敗してもなにも問題はなく、むしろその失敗から色々学んでいくための授業なので、自分なりに自分の考えを伝えていけば良いと思う。

〔2022年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態			開講キャンパスおよび開講期			
						講義	演習	実習	杉本		中百舌島	
									前期	後期	前期	後期
初年次教育科目	初年次ゼミナール	「歩行」を科学しよう	淵岡 聡	2	2		○		月2			
		会社四季報で学ぶ企業分析	石川 博行	2	2		○		月2			
		政治学・法学入門	永井 史男	2	2		○		火1			
		J.-J.ルソーの『社会契約論』を読み解く	中村 健吾	2	2		○		火1			
		データを活用した発表を行うために	高塚 創	2	2		○		火1			
		科学的に考えるとは一体どういうことか	宮川 壽夫	2	2		○		火1			
		機能性食品について調べ、その意義を考える	増田 俊哉	2	2		○		火1			
		喰うこと	竹中 重雄	2	2		○		火1			
		建築の見方を考えてみる	鈴木 裕介	2	2		○		火2			
		囲碁入門	村治 雅文	2	2		○		火1			
		都市と社会・経済	立見 淳哉	2	2		○		木5			
		大学って何だろう	深野 政之	2	2		○		火1			
		哲学対話から	土屋 貴志	2	2		○		火2			
		社会問題への法的対応の可能性と限界	阿部 昌樹	2	2		○		火2			
		法学・政治学入門	桐山 孝信	2	2		○		火2			
		民事判例を読む	杉本 好央	2	2		○		火2			
		行政法入門	高田 倫子	2	2		○		火2			
		大阪刑事判例研究	徳永 元	2	2		○		火2			
		昭和史の経済分析	森脇 祥太	2	2		○		火2			
		多文化社会日本を考えなおす	明戸 隆浩	2	2		○		火2			
		技術と社会を考える	田口 直樹	2	2		○		火2			
		リベラルアーツとしての数学	尾角 正人	2	2		○		火2			
		物理学の最先端をのぞいてみよう!	野場 賢一	2	2		○		火2			
		イノベーション(新基軸)に学ぶ	小林 中	2	2		○		火2			
		胃腸の病気について学び、考える	渡邊 俊雄	2	2		○		火2			
		健康と栄養・食生活の関わりを考える	由田 克士	2	2		○		火2			
		カーボンニュートラルを考える	天尾 豊	2	2		○		火2			
		ソーシャルメディアの社会学	石田 佐恵子	2	2		○		火3			
		会社をつくって、運営しよう!	高橋 英治	2	2		○		火3			
		民事訴訟のしくみを理解する	鶴田 滋	2	2		○		火3			
		経済現象の因果関係の統計的検証	小川 亮	2	2		○		火3			
		ゲーム理論で社会問題を考える	内藤 克幸	2	2		○		火3			
		研究過程を一から完成までの徹底的実践	Justin Kyle Aukema	2	2		○		火3			
		大学生の読む・書く・プレゼンの方法	ト 志強	2	2		○		火3			
		エネルギーと未来社会	有吉 欽吾	2	2		○		火3			
		バイオ工学について考えてみよう	中西 猛	2	2		○		火3			
		「イエ」とは何か?	上田 博之	2	2		○		火3			
		身体運動の測定	鈴木 雄太	2	2		○		火3			
		日本語を調べる	丹羽 哲也	2	2		○		火4			
		交通・公益事業に関する諸問題	浦西 秀司	2	2		○		火4			
		株式会社と株式投資	翟 林瑜	2	2		○		火4			
		自分の出すごみを考える	水谷 聡	2	2		○		火4			
		リノベーションのデザインと大阪	小池 志保子	2	2		○		火4			
		スポーツでかなえるSDGs	横山 久代	2	2		○		火4			
		大学生として学び考える基本を身につけよう	飯吉 弘子	2	2		○		火4			
		教育という謎・不思議を考えよう	西垣 順子	2	2		○		火4			
		興味関心を「縦と横」とに編み上げる	平 知宏	2	2		○		火4			
		米大統領選から民主主義を考える	神野 光指郎	2	2		○		火4			
		講義で求められる基礎力の醸成	圓丸 哲麻	2	2		○		火4			
		私たちの日常と社会福祉の関わり	鶴浦 直子	2	2		○		火5			
行政と考える人の生活と命を守る取り組み	川合 忠雄	2	2		○		火5					
調理家電について考えよう	伊與田 浩志	2	2		○		火5					
食を取り巻く課題について考えよう	市川 直樹	2	2		○		火5					
住宅の質的しくみ	渡部 嗣道	2	2		○		火5					
住まいから考える	福田 美徳	2	2		○		火5					
アクティブライフを構築するための運動を考える	岡崎 和伸	2	2		○		火5					
日常的な“医療的課題”を科学的に解析する	羽生 大記	2	2		○		火5					
子ども・スポーツ・レクリエーションから社会を考える	三宅 孝昭	2	2		○		火5					

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態			開講キャンパスおよび開講期				
						講義	演習	実実験	杉本		中百舌鳥		
									前期	後期	前期	後期	
初年次教育科目	初年次ゼミナール	ロシア・中央アジアの歴史文化と社会	濱本 真実	2	2		○		木2				
		データ分析を行う	中村 英樹	2	2		○		木2				
		ミクロ経済学・計量経済学の視点	北原 稔	2	2		○		木2				
		AIは社会をどのように変えるのか	牧 良明	2	2		○		木2				
		場づくりの実践	西野 雄一郎	2	2		○		木2				
		未来社会の想像・創造	重松 孝昌	2	2		○		木2				
		「環境と化学」についてプレゼンする	南 達哉	2	2		○		木2				
		くすりの〇〇を考える	立花 亮	2	2		○		木2				
		麻酔って何だろう？	森 隆	2	2		○		木2				
		社会学の視点から考える現代日本	松木 洋人	2	2		○		木2				
		大学での基本的な学び方を身につける	橋本 智也	2	2		○		木2				
		問題発見を通じて「智」の技法と感性を学ぶ	天野 景太	2	2		○		木4				
		ケインズ『人物評伝』を読む	有賀 敏之	2	2		○		木4				
		『神は詳細に宿る』をテキストに学びの一步	松永 桂子	2	2		○		木4				
		事業計画を作成しよう	清田 匡	2	2		○		木4				
		化学と社会	品田 哲郎	2	2		○		木4				
		環境に配慮した都市政策について	吉田 長裕	2	2		○		木4				
		日常生活を活動動作の観点から科学する	内藤 泰男	2	2		○		木4				
		「子ども・像」を共通課題とする自由研究	中井 孝章	2	2		○		木4				
		暴力・ハラスメントについて考える	伊藤 良子	2	2		○		木4				
		一般意味論を通して思考と行動を省みる	田中 健司	2	2		○		木5				
		社会や地域に関する情報の収集と活用	祖田 亮次	2	2		○		木5				
		ジェンダー法学	勝田 卓也	2	2		○		木5				
		因果推論入門	伊藤 岳	2	2		○		木5				
		経営学を知る	石井 真一	2	2		○		木5				
		世界の地域問題を考える	藤塚 吉浩	2	2		○		木5				
		身のまわりの微生物について考える	神谷 重樹	2	2		○		木5				
		スポーツと栄養	高尾 理樹夫	2	2		○		木5				
		ドイツの社会・文化・歴史	谷口 栄一	2	2		○		木5				
		経済問題の調査・研究	中嶋 哲也	2	2		○		金4				
		明治社会の変動と生きづらさに学ぶ	若森 みどり	2	2		○		金4				
		東南アジアの社会と経済	金子 勝規	2	2		○		金4				
		都市経営に関わる多様な課題を考える	遠藤 尚秀	2	2		○		金4				
		GISを使って考える都市の持続可能性	米澤 剛	2	2		○		金4				
		腎不全治療としての腎臓移植について考える	内田 潤次	2	2		○		金4				
		これからの医療問題を考える	後藤 剛夫	2	2		○		金4				
		「左と右」を考える	宮井 和政	2	2		○		金4				
		動作を科学する	岩田 晃	2	2		○		金4				
		～大学発！！オリジナルレジをつくらう！！～	安井 洋子	2	2		○		金4				
		住まいと身近なまちを考える	小伊藤 亜希子	2	2		○		金4				
		納得する！こころやかからだの気になるところ	大西 次郎	2	2		○		金4				
		フェミニズムと男性	古久保 さくら	2	2		○		金4				
		身近なモノ(商品)からSDGsを考える	福田 常男	2	2		○		金5				
表計算ソフトの活用と地球温暖化問題	七條 達弘	2	2		○		金5						
「古民家vsターマンション」どちらに住みたい？	徳尾野 徹	2	2		○		金5						
脱炭素化と未来社会	金崎 順一	2	2		○		金5						
病気にひそむ「進化」の謎にせまる	橋本 求	2	2		○		金5						
甘党は健康長寿？～カラダのブドウ糖探究～	繪本 正憲	2	2		○		金5						
子ども幸福度を改善する方策を立案しよう	濱崎 考史	2	2		○		金5						
聞こえについての問題を考えよう	角南 貴司子	2	2		○		金5						
高齢者のサクセスフルエイジング達成の秘訣	横井 賀津志	2	2		○		金5						
地域一体型FactorISMの運営に参加しよう	松井 利之	2	2		○		金5						

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態			開講キャンパスおよび開講期				
						講義	演習	実実 習験	杉本		中百舌島		
									前期	後期	前期	後期	
初年次教育科目	初年次ゼミナール	流れの科学と研究の作法	小笠原 紀行	2	2		○					火1	
		健康食品やサプリメントを知る・考える	北風 智也	2	2		○					火1	
		人をケアすることを考える	宮下 佳代子	2	2		○					火1	
		遺伝子組換えをめぐる科学技術と社会	片平 じゅん	2	2		○					火1	
		病(やまい):動物はどうして病気になるのか?	桑村 充	2	2		○					火1	
		小さなコンピュータ、さて、どう使う?	小西 啓治	2	2		○					火1	
		物質科学への探検	森 茂生	2	2		○					火1	
		環境問題の改善に貢献できる技術を考えよう	興津 健二	2	2		○					火1	
		批評文で文章力・思考力の基礎を作ろう!	酒井 隆史	2	2		○					火2	
		中百舌島キャンパスの植物病気図鑑を作る	望月 知史	2	2		○					火2	
		コンピュータシミュレーションで見る世界	安田 雅昭	2	2		○					火2	
		化学物質を“はかる”の社会的意義を考える	遠藤 達郎	2	2		○					火2	
		物語の中の物質	知久 昌信	2	2		○					火2	
		光と色	松井 康哲	2	2		○					火2	
		私達は「ナノ材料」で囲まれている?	岡田 健司	2	2		○					火2	
		SFに見る科学技術の過去・現在・未来	稲田 のりこ	2	2		○					火2	
		バイオテクノロジーの進化を考える	小川 拓水	2	2		○					火2	
		酵母の利用法	岸田 正夫	2	2		○					火2	
		自ら知識を身に付けよう	許 岩	2	2		○					火2	
		メディアとしてのミュージアム	福田 珠己	2	2		○					火3	
		さまざまな物理現象と微分方程式	及川 典子	2	2		○					火3	
		情報通信技術と未来社会のすがた	三好 悠司	2	2		○					火3	
		わがごと地域防災・減災プロジェクト	畠山 典子	2	2		○					火3	
		避難所の生活環境と健康問題について考える	村川 由加理	2	2		○					火3	
		人工知能で自然知能を賢くする	黄瀬 浩一	2	2		○					火3	
		科学的思考事始	中村 雅夫	2	2		○					火3	
		環境・サステイナビリティについて考える	遠藤 良輔	2	2		○					火3	
		日本の文化(生と死、健康、遊びや娯楽など)	趙 崇来	2	2		○					火3	
		子どもが安全に過ごせる社会を考える	長田 暁子	2	2		○					火3	
		キャンパス周辺の大地の成り立ち	伊藤 康人	2	2		○					火3	
		地球温暖化を論理的に考える	新井 励	2	2		○					火4	
		科学的に問題を解決!最適化入門	森澤 和子	2	2		○					火4	
		エネルギー・資源・環境のホントを知ろう	堀内 悠	2	2		○					火4	
		二酸化炭素の循環利用	安田 昌弘	2	2		○					火4	
		ネッシーは、いるのか、いないのか?	松澤 健志	2	2		○					火4	
		電力システム改革ってなんだ?	高山 聡志	2	2		○					火4	
		病いと共に自分らしく生きるための支援とは	隅田 好美	2	2		○					火4	
		障がい、病と生きることを考える	田垣 正晋	2	2		○					火4	
		これからの日本の海に関わる物作りを考える	片山 徹	2	2		○					火4	
		SFにおける科学	岡本 晃一	2	2		○					火4	
疑似科学を科学する	野内 亮	2	2		○					火4			
放射線管理の基礎を学ぶ	松浦 寛人	2	2		○					火4			
食卓の科学	岩住 俊明	2	2		○					火5			
私たちの社会と放射線について調べてみよう	堀 史説	2	2		○					火5			
発表をデザインしよう	大崎 修司	2	2		○					火5			
水問題を解決するには何を学ぶべきか?	中桐 貴生	2	2		○					火5			
英語でチャレンジ!基礎生物学	藤田 寿一	2	2		○					火5			
看護場面におけるナラティブアプローチ入門	紙野 雪香	2	2		○					火5			
がんについて知ろう	徳岡 良恵	2	2		○					火5			
食べ物について考える	森山 光章	2	2		○					火5			
どのようにつくる?これからのエネルギー	岡本 尚樹	2	2		○					火5			
「源氏双六」の楽しみ方	青木 賜鶴子	2	2		○					火5			

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態			開講キャンパスおよび開講期					
						講義	演習	実習 実験	杉本		中百舌島			
									前期	後期	前期	後期		
初年次教育科目	初年次ゼミナール	環境問題とその対策について考えよう	黒木 智之	2	2		○					木4		
		全固体電池の科学と展望	作田 敦	2	2		○						木4	
		古典籍から昔の環境を垣間見る	青野 靖之	2	2		○						木4	
		21世紀型互助システムの創出	岡野 明美	2	2		○						木4	
		セクシュアルヘルスとセクシュアリティ教育	佐保 美奈子	2	2		○						木4	
		生老病死について考えよう	山内 加絵	2	2		○						木4	
		身の回りに潜む「毒」	西村 和彦	2	2		○						木4	
		自分のイメージを明確にする	嶋田 照雅	2	2		○						木4	
		プログラミング不要な機械学習入門	水谷 彰夫	2	2		○						木5	
		賢い機械をつくらう	小林 友明	2	2		○						木5	
		なぜそこにそのマテリアル？今と未来	瀧川 順庸	2	2		○						木5	
		コンピューターを使って科学する	池野 豪一	2	2		○						木5	
		フルーツは体に悪い!?食の通念は本当？	塩崎 修志	2	2		○						木5	
		意外に不思議な寄生植物	青木 考	2	2		○						木5	
		外国人ケア労働者との協働について考える	益 加代子	2	2		○						木5	
		健康なダイエットについて考えよう！	井上 奈々	2	2		○						木5	
		スポーツと感染リスク	喜田 雅彦	2	2		○						木5	
		腫瘍疾患との付き合い方	長谷川 貴史	2	2		○						木5	
		どっちの「見方」？野生動物と共生を考える	松林 誠	2	2		○						木5	
		メルヘンから読み解く深層心理学	総田 純次	2	2		○						金4	
		イノベーションの法則を探究する	森 浩一	2	2		○						金4	
		人と科学をつなぐ Science Communication	安齋 太陽	2	2		○						金4	
		身のまわりの微生物	川口 剛司	2	2		○						金4	
		微生物と人との関わり	阪本 龍司	2	2		○						金4	
		ランドスケープからまちをデザインする	松尾 薫	2	2		○						金4	
		都市の緑地と人々の生活との関わりを考える	大塚 芳嵩	2	2		○						金4	
		私のキャリア探求:心理学での学びを通して	畑野 快	2	2		○						金4	
		「なにわ」の謎を解き明かす	大塚 耕司	2	2		○						金5	
		機械学習、AIについて考える	野津 亮	2	2		○						金5	
		人間科学入門	澤井 元	2	2		○						金5	
カーボンニュートラル社会のエネルギー	片岡 秀文	2	2		○						金5			
科技・イノベ基本計画って何だろう？	弓場 英司	2	2		○						金5			
過剰診断・過剰治療の問題を考える	石橋 宰	2	2		○						金5			

3. 情報リテラシー科目

〔カリキュラム概要〕

大学や社会で必要となる情報処理の基礎的な知識と技能に加え、インターネットによるコミュニケーション手法や情報化社会に参画するための情報倫理、情報機器によるプレゼンテーション等のスキルについて、文系・理系を問わず共通に身につけることを目的に、1年次全学生の必修科目として「情報リテラシー」（2単位）を開講します。

〔科目の構成〕

「情報リテラシー」は全学生必修で、1年次前期に開講します。自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。他学科等向けのクラスは履修できません。

〔履修上の注意〕

授業は各自のPCを用いて行います。必要なソフトウェアのインストールなどについては授業中に指示します。

〔2022年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス (別途掲示)	開講キャンパスおよび開講期				備考
				講義	演習	実習 実験		杉本		中百舌鳥		
								前期	後期	前期	後期	
情報リテラシー科目	情報リテラシー	2	2	○			○		○			

●情報リテラシー科目の配当年次は1年次です。

4. 外国語科目（英語・初修外国語）

4-1. 英語

〔カリキュラム概要〕

世界共通語としての英語の4技能（Reading、Listening、Writing、Speaking）について、一定の能力を身に付けることはグローバル化した世界では非常に重要です。自立的英語使用者及び自律的英語学修者の育成を目的とし、卒業までに学生が一定レベル（CEFR* B1 以上）に達することを目指して、1年次で4単位、2年次で2単位の必修科目「University English」を提供します。

1年次には、4技能に関わる基礎的な能力を、それぞれインプットからアウトプットの流れを重視する中で養成し強化します。さらには、学生の言語活動に対する自信、異文化への認識及びクリティカル・シンキングの能力の育成を目指します。

2年次には、1年次で修得した各スキルを発展させ、各学生の専門課程への橋渡しとなる英語読解能力を養い、さらに、研究レポート作成及びプレゼンテーションと質疑応答のスキルを学生が身に付けることを目指します。

2年間の必修科目を通じて、最終的には、アカデミックなコンテキストにおいて高度な英文読解ができ、自信を持ってライティングとプレゼンテーションができる学生の育成を目指します。

その他、必修科目に加えて、少人数規模での選択科目を展開します。選択科目では、学生の伸ばしたい特定のスキルの修得や関心のある分野の理解を深めるための科目を提供するとともに、短期海外語学研修や長期留学を計画する学生のニーズに対応するための科目も提供します。

*CEFR : Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment (外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠)

〔科目の構成〕

1年次は必修科目として、University English 1A（前期：日本人教員）、University English 1B（前期：外国人教員）、University English 2A（後期：日本人教員）、University English 2B（後期：外国人教員）で構成されています。

2年次必修科目は、University English 3A（前期または後期：日本人教員）、University English 3B（前期または後期：外国人教員）です。

学部・学域等によりクラス指定されますので、学生は所定のクラスを学生ポータル（UNIPA）で履修登録してください。クラス分けについては、別途掲示します。

選択科目は、Media English、Writing A、Writing B、TOEFLA、TOEFLB、TOEIC L & R、海外語学研修A、海外語学研修B、海外活動（留学・ビジネス）準備コース、Discussion、Reading、Literature、Comparative Culture、ESD** A、ESD B、Presentation、Communicative Grammarの各科目です。自分の興味、関心に応じて選択科目を履修してください。

ただし、Writing A、Presentationは後期開講で、それぞれUniversity English 1A、University English 1Bの修得が履修条件となります。また、Writing Bの履修ができるのは3年次からとなります。他の選択科目についても、履修の目安を記載している場合があるので、履修登録をする前に各シラバスをよく確認してください。

**ESD : Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)

〔履修上の注意〕

● English Portfolio について

English Portfolio は、英語学修の過程や英語を用いた活動を記録し蓄積していくシステムです。English Portfolio を使って日々の学修や活動を定期的に振り返り、これまで何をどのように学び、その結果自分はどんな英語能力を身につけることができているのかといった今の自分の立ち位置を確認しながら、次の学びにつなげていきましょう。

必修科目の University English 1A、1B、2A、2B では、English Portfolio の Unit Reflection を活用します。教科書の各ユニットの学習が終わったらアクセスしてください。CAN-DO チェックリストを見ながら学んだことをふり振り返り、自分の今のスキルレベルを確認しましょう。自分にとってどの目標が重要で、これから何を学ぶ必要があるのかを把握するのに役立ててください。

● 外国語科目（英語）の単位認定について

TOEIC スコア等が一定レベル以上の場合、英語科目の単位認定を行う制度があります。詳細は、本冊子の p.10 を参照してください。なお、認定された科目は履修することができないので注意してください。

〔2022年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考
				講義	演習	実習 実験		杉本		中百舌島		
								前期	後期	前期	後期	
外国語科目	University English 1A	2	1			○			○			
	University English 1B	2	1			○			○			
	University English 2A	2	1				○			○		
	University English 2B	2	1				○			○		
	University English 3A	2	1									2023年度以降開講科目 /2年次配当科目
	University English 3B	2	1									
	University English 1A	2	1			○	全		○		○	再履修クラス
	University English 1B	2	1			○	全		○		○	
	University English 2A	2	1			○	全					2023年度以降開講科目 /2年次配当科目/再履修クラス
	University English 2B	2	1			○	全					
	University English 3A	2	1			○	全					2023年度以降開講科目 /2年次配当科目/再履修クラス
	University English 3B	2	1			○	全					
	Media English	2	1			○	全	○		○		
	Writing A	2	1			○	全		○		○	履修には、University English 1Aの単位修得が必要
	Writing B	2	1			○	全					2023年度以降開講科目/3年次配当科目/履修には、University English全6単位の修得が必要
	TOEFL A	2	1			○	全	○		○		
	TOEFL B	2	1			○	全		○		○	
	TOEIC L&R	2	1			○	全	○		○		
	英語海外語学研修A	2	1			○	全				集中	CAP対象外
	英語海外語学研修B	2	1			○	全				集中	CAP対象外
	海外活動(留学・ビジネス)準備コース	2	1			○	全	○		○		
	Discussion	2	1			○	全	○	○	○	○	
	Reading	2	1			○	全	○	○	○	○	
	Literature	2	1			○	全	○		○		
	Comparative Culture	2	1			○	全	○		○		
	ESD A	2	1			○	全	○		○		
	ESD B	2	1			○	全		○		○	
Presentation	2	1			○	全		○		○	履修には、University English 1Bの単位修得が必要	
Communicative Grammar	2	1			○	全		○		○		

- 太枠は必修科目です。
- 灰色網掛けは、2年次以上配当科目のため、2023年度以降の開講です。
- 備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。

〔TOEIC テストの受験について〕

大阪公立大学生協同組合が実施する「TOEIC® Listening & Reading IP テスト」(オンライン)を受験してください。

受験方法等の詳細は、生協からの案内等を参照し、各自で申し込みをしてください。受験時期については、1年次の前期(4月)、後期(1月)及び2年次後期(1月)の計3回を推奨します。

なお、1年次後期(1月)のスコアは、「University English 2A」の評価に含みます。(成績採用率については、シラバスを参照してください)。

4-2. 初修外国語

〔カリキュラム概要〕

初修外国語とは大学に入学して初めてゼロから学ぶ外国語という意味です。大阪公立大学では朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語の5言語を初修外国語科目として提供しています。

多様な言語、多様な文化を持つ人々が共に働き共に生きる21世紀の社会を構成する市民として、英語以外の新しい言語の学習は不可欠です。21世紀の社会を構成する市民として、複言語・複文化の理念のもと、新しい言語の学習を通じて異なる言語や文化にもとづく社会の間はもとより、同じ言語や文化の人々の間も橋渡しする能力の基礎を身につけます。また、成人として自ら選んだ新しい言語の学習を通じて自律学習を行う方法を学びます。

それぞれの言語の紹介については『初修外国語履修ガイド』をご覧ください。

〔科目の構成〕

初修外国語は**必修科目**です。卒業に必要な単位数は学部・学域によって異なりますので、それぞれの学部・学域の『要覧』をご覧ください。

新しい言語を学び始める時に1クラスの人数が多すぎるのはよくありませんので、初修外国語には抽選があります。第1希望と第2希望の言語を選んでください。

<1年次の3コース>

- 1年次の初修外国語には週1回コース、週2回コース、週3回コースがあります。所属する学部・学域によって選択できるコースが決まっています。
- 週1回コースは新しい言語に親しむコースです。前期の単位が取れなくてもそのまま後期を履修できます。

前期	後期
〇〇語入門1	〇〇語入門2

- 週2回コースは文法と会話の2つの観点から学びます。それぞれの授業は独立して成績がつけられます。また、前期の単位が取れなくてもそのまま後期を履修できます。

前期	後期
〇〇語入門A(基礎)	〇〇語初級A(基礎)
〇〇語入門B(会話)	〇〇語初級B(会話)

※A(基礎)は文法中心です。

- 週3回コースは緊密に連携した週2回セットの基礎と週1回の応用です。前期の単位が修得できないと、後期は履修できません。

前期	後期
〇〇語基礎1	〇〇語基礎2
〇〇語基礎1	〇〇語基礎2
〇〇語応用1	〇〇語応用2

〔学部・学域ごとの配当コース〕

学部・学域	コース
農学部（生命機能化学科・緑地環境科学科）・ 獣医学部・医学部・看護学部・生活科学部	週 1 回コース
現代システム科学域・ 理学部・工学部・農学部（応用生物科学科）	週 1 回コースまたは週 2 回コース のいずれかを選択
経済学部	週 2 回コースまたは週 3 回コース のいずれかを選択
商学部	1 年次は週 2 回コース +2 年次に中級を週 1 回※
文学部・法学部	週 3 回コース

※商学部 2 年次科目は「中級 1」「中級 2」で、いずれも必修科目です。

＜更に学びたい人のために＞

1 年次で学んだ初修外国語を更に学びたい人のために、2 年次では選択科目として特修が設けられています。特修を履修するには 1 年次前期に 1 単位以上修得、かつ 1 年次後期に 1 単位以上の単位を修得していることが必要です。特修の前期科目と後期科目は独立しています。前期だけ後期だけの履修が可能です。また 1 学期に複数の特修を履修することもできます。

選択科目として海外語学研修があります。夏季休業などを利用してその言語が話されている地域に行って学びます。

〔履修上の注意〕

- 初修外国語科目はゼロから始める外国語科目という意味ですから、自分の第一言語(母語)を初修外国語科目として履修することはできません。
- 日本語を第一言語(母語)としない学生は、特例科目(外国人留学生及び日本語を母語としない学生を対象にした日本語科目)を履修し単位を修得した場合、初修外国語の単位として認定することができます。
- 朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語は第一言語(母語)ではないが、朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語を学んだことのある方で、指定するレベル以上の場合は、申請して面接試験等に合格すれば、入門初級科目の履修を免除し、1 年次より中級科目を履修できます。ただし、1 年次科目の履修を免除するだけであって、単位が与えられるわけではありません。

〔2022年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考
				講義	演習	実習 実験		杉本		中百舌島		
								前期	後期	前期	後期	
外国語科目	ドイツ語	ドイツ語入門1	2	1			○		○		週1回コース	
		ドイツ語入門2	2	1				○			○	
		ドイツ語入門A(基礎)	2	1			○		○			
		ドイツ語入門B(会話)	2	1			○		○			
		ドイツ語初級A(基礎)	2	1				○			○	
		ドイツ語初級B(会話)	2	1				○			○	
		ドイツ語中級1	2	1				○				
		ドイツ語中級2	2	1					○			
		ドイツ語基礎1	4	2			○					
		ドイツ語基礎2	4	2			○		○			
		ドイツ語応用1	2	1			○					
		ドイツ語応用2	2	1			○		○			
		ドイツ語特修A	2	1			○	全	○		○	
		ドイツ語特修B	2	1			○	全		○	○	
		ドイツ語特修C	2	1			○	全	○		○	
		ドイツ語特修D	2	1			○	全		○	○	
		ドイツ語特修E	2	1			○	全	○		○	
		ドイツ語特修F	2	1			○	全		○	○	
		ドイツ語特修G	2	1			○	全	○		○	
	ドイツ語特修H	2	1			○	全		○	○		
	ドイツ語海外語学研修	2	1			○	全			集中		
	ドイツ語入門1	2	1			○				○		
	フランス語	フランス語入門1	2	1			○		○		週1回コース	
		フランス語入門2	2	1				○			○	
		フランス語入門A(基礎)	2	1			○		○			
		フランス語入門B(会話)	2	1			○		○			
		フランス語初級A(基礎)	2	1				○			○	
		フランス語初級B(会話)	2	1				○			○	
		フランス語中級1	2	1			○					
		フランス語中級2	2	1				○				
		フランス語基礎1	2	2			○					
		フランス語基礎2	2	2			○		○			
		フランス語応用1	2	1			○					
フランス語応用2		2	1			○		○				
フランス語特修A		2	1			○	全	○		○		
フランス語特修B		2	1			○	全		○	○		
フランス語特修C	2	1			○	全	○		○			
フランス語特修D	2	1			○	全		○	○			
フランス語特修E	2	1			○	全	○					
フランス語特修F	2	1			○	全		○				
フランス語特修G	2	1			○	全	○					
フランス語特修H	2	1			○	全		○				
フランス語海外語学研修A	2	1			○	全			集中			
フランス語海外語学研修B	2	1			○	全			集中			
フランス語入門1	2	1			○				○			

初修外国語

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考	
				講義	演習	実習 実験		杉本		中百舌鳥			
								前期	後期	前期	後期		
外国語科目	中国語	中国語入門1	2	1			○		○			週1回コース	
		中国語入門2	2	1				○			○		
		中国語入門A(基礎)	2	1			○		○			週2回コース	
		中国語入門B(会話)	2	1			○		○				
		中国語初級A(基礎)	2	1				○			○		
		中国語初級B(会話)	2	1				○			○		
		中国語中級1	2	1			○					2023年度以降開講科目	
		中国語中級2	2	1				○					
		中国語基礎1	2	2			○					週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要 応用2の履修には応用1の単位修得が必要	
		中国語基礎2	2	2				○					
		中国語応用1	2	1			○						
		中国語応用2	2	1				○					
		中国語特修A	2	1			○	全	○		○		2023年度以降開講科目/ 履修には、1年次前期の中国語で1単位以上、かつ1年次後期の中国語で1単位以上、計2単位以上の単位修得が必要
		中国語特修B	2	1			○	全		○	○		
		中国語特修C	2	1			○	全	○		○		
		中国語特修D	2	1			○	全		○	○		
		中国語特修E	2	1			○	全	○		○		
		中国語特修F	2	1			○	全		○	○		
		中国語特修G	2	1			○	全	○		○		
	中国語特修H	2	1			○	全		○	○			
	中国語海外語学研修A	2	1			○	全	集中			CAP対象外		
	中国語海外語学研修B	2	1			○	全	集中			CAP対象外		
	中国語入門1	2	1			○			○		再履修クラス		
	ロシア語	ロシア語入門1	2	1			○		○			週1回コース	
		ロシア語入門2	2	1				○			○		
		ロシア語入門A(基礎)	2	1			○		○			週2回コース	
		ロシア語入門B(会話)	2	1			○		○				
		ロシア語初級A(基礎)	2	1				○			○		
		ロシア語初級B(会話)	2	1				○			○		
		ロシア語中級1	2	1			○					2023年度以降開講科目	
		ロシア語中級2	2	1				○					
		ロシア語基礎1	2	2			○					週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要 応用2の履修には応用1の単位修得が必要	
		ロシア語基礎2	2	2				○					
ロシア語応用1		2	1			○							
ロシア語応用2		2	1				○						
ロシア語特修A		2	1			○	全	○		○	2023年度以降開講科目/ 履修には、1年次前期のロシア語で1単位以上、かつ1年次後期のロシア語で1単位以上、計2単位以上の単位修得が必要		
ロシア語特修B		2	1			○	全		○	○			
ロシア語特修C	2	1			○	全	○		○				
ロシア語特修D	2	1			○	全		○	○				
ロシア語海外語学研修	2	1			○	全	集中			CAP対象外			
ロシア語入門1	2	1			○			○		再履修クラス			

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考	
				講義	演習	実習 実験		杉本		中百舌鳥			
								前期	後期	前期	後期		
													前期
外国語科目	朝鮮語	朝鮮語入門1	2	1			○		○		週1回コース		
		朝鮮語入門2	2	1				○			○		
		朝鮮語入門A(基礎)	2	1			○		○			週2回コース	
		朝鮮語入門B(会話)	2	1			○		○				
		朝鮮語初級A(基礎)	2	1				○			○		
		朝鮮語初級B(会話)	2	1				○			○		
		朝鮮語中級1	2	1			○					2023年度以降開講科目	
		朝鮮語中級2	2	1				○					
		朝鮮語基礎1	2	2			○					週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単 位修得が必要 応用2の履修には応用1の単 位修得が必要	
		朝鮮語基礎2	2	2				○					
		朝鮮語応用1	2	1			○						
		朝鮮語応用2	2	1				○					
		朝鮮語特修A	2	1			○	全	○		○	2023年度以降開講科目/ 履修には、1年次前期の朝鮮語 で1単位以上、かつ1年次後期 の朝鮮語で1単位以上、計2単 位以上の単位修得が必要	
		朝鮮語特修B	2	1			○	全		○	○		
		朝鮮語特修C	2	1			○	全	○		○		
		朝鮮語特修D	2	1			○	全		○	○		
		韓国語海外語学研修A	2	1			○	全	集中			集中	CAP対象外
		韓国語海外語学研修B	2	1			○	全		集中		集中	CAP対象外
朝鮮語入門1	2	1			○			○		○	再履修クラス		

- 選択できるコースは、本冊子p.36の[カリキュラム概要]の「学部・学域ごとの配当コース」の表を参照してください。
- 備考欄に配当年次が記載されていない科目は1年次配当です。

5. 特例科目

〔カリキュラム概要〕

本科目は、留学生及び日本語を母語としない学生が日本語母語話者と同程度の言語運用が可能となることを目的としています。

留学生にとって日本語の習得は容易なことではありません。もちろん「日本語の習得」といっても、その内容も基準も、状況に応じて様々です。日常生活に必要な会話から、手紙や役所の届け出の書類を書くこと、テレビなどのメディアの中で使われる日本語の新しい言葉を通しての趣味・娯楽など、個々人の必要度に応じて、どこが「習得」の基準になるかが決まります。しかしここでは、研究活動や大学生活において必要な日本語の習得をめざしています。

大学生活を更に豊かなものにするため、学習活動や研究活動のために必要となる日本語能力を身に付けること。つまり、学習活動に必要な日本語能力とは、講義を聞き、理解する、ノートを取る、自分の疑問点を日本語で表現する能力です。また、研究活動に必要な能力とは、専門書を読んで要約し、自分の問題意識を絞ってゼミで発表する、質疑応答してディスカッションする技術、さらにはレポートをまとめたり、論文を書く能力です。

「日本語 1～3」の各科目ではそのような日本語能力の養成を、幅広い観点・多彩な角度から行います。

〔科目の構成〕

- 履修年次は特に指定しません。また、科目の番号順に履修する必要はありません。
- 時間割の上で同一の時間帯に他の科目と重複して履修申請することはできません。
- 初回の授業には必ず出席してください。
- 修得した単位を、初修外国語科目の単位としての認定を希望しない場合は、教育推進課に申し出てください。その場合、自由科目となり、卒業要件には算入されません。
- 科目名の 1、2、3 は、おおよそ、「学ぶ日本語のレベル」を表しています。
1 より 2、2 より 3 の方が上のレベルです。
- 科目名の B は「学ぶ活動の種類」を表しています。A は主に表現（作文）・読解を学びます。
B は主に会話・聴解を学びます。
- 厳密な履修資格やクラス分けテストなどは設けていません。履修者の学習事情や時間割の都合で、各科目を選択してください。

〔履修上の注意〕

- 日本語を母語とする学生は履修できません。

※中百舌鳥キャンパスのみ

- 同じ学期に、「学ぶ活動の種類」が同じ科目を 2 つ履修することはできません。
例えば「日本語 1A」「日本語 2A」と同じ学期に履修することはできません。

【2022年度開講予定科目一覧】

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考
				講義	演習	実習 実験		杉本		中百舌鳥		
								前期	後期	前期	後期	
特例科目	日本語1A	2	1			○		○		自由科目／CAP対象外		
	日本語1B	2	1				○	○				
	日本語2A	2	1			○		○	○			
	日本語2B	2	1				○	○	○			
	日本語3A	2	1			○			○			
	日本語3B	2	1				○		○			

特例科目

6. 健康・スポーツ科学科目

〔カリキュラム概要〕

人生 100 年時代と言われるように高齢化が急速に進む我が国において、well-being（身体だけではなく、精神面、社会面も含めた、新しい本当の意味での健康的な状態）として、健康の在り方を理解し、実践することが重要であるとの認識のもと、必修科目として、「健康・スポーツ科学概論」（2 単位）及び「健康・スポーツ科学実習」（1 単位）を開講します。本科目では、生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るために必要な知識や方法について、主としてスポーツを中心とした行動を通じて具体的、学術的に修得するとともに、健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について、理論と実践を通し理解を深めることを目的とします。

〔科目の構成〕

必修科目として、「健康・スポーツ科学概論」および「健康・スポーツ科学実習」で構成されています。

自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。他学部等向けのクラスは履修できません。

「健康・スポーツ科学概論」では、各教員の専門性を含んだ授業が展開されます。

「健康・スポーツ科学実習」では、各種のスポーツに分かれて授業が実施されます。

〔履修上の注意〕

- 健康・スポーツ科学実習（以下「実習」という）の内容説明およびスポーツ種目の選択は、第 1 週時のガイダンスにて行いますので、必ず出席してください。
- 実習では、各種目に定員があるため、各人の希望する種目を履修できない場合があります。
- 実習の履修にあたっては、健康診断を受診するなど健康状態の把握と健康管理に努めてください。また、各自で保険（学生教育研究災害障害保険〔学研災〕および同付帯保険や学生総合共済など）に加入しておいてください。
- 実習では、健康上の事由によりスポーツの実施が困難と認められる者に対しては、健康状態に応じた授業を展開します。希望する場合は、事前に健康状態などの詳細について、各キャンパスのアクセシビリティセンターに相談のうえ、第 1 週時のガイダンスの際に担当教員に申し出てください。その場合も自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。授業実施曜日・時限等については当該学生と担当教員との相談の上で別途決定します。

〔2022年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス (別途掲示)	開講キャンパスおよび開講期				備考
				講義	演習	実習 実験		杉本		中百舌鳥		
								前期	後期	前期	後期	
健康・ スポーツ 科学 科目	健康・スポーツ科学概論	2	2	○			○	○	○	○		
	健康・スポーツ科学実習	2	1			○	○	○	○			

- 健康・スポーツ科学科目の配当年次は1年次です。

7. 基礎教育科目

〔カリキュラム概要（全体）〕

それぞれの学問領域の基礎教育の中で、基幹教育として提供することがふさわしい自然科学系科目（情報系を含む）を基礎教育科目として提供します。学士課程教育において、科学の基本的能力として必要とされる学力と能力を養成するために、1～2年次に「数学」「物理学」「化学」「生物学」「地学」「情報学」の基礎教育（講義・演習・実験）を開講します。それぞれの科目では、学士課程において必要な科学的基盤を身に付けるのみでなく、専門教育へもスムーズに接続できる知識・技能の修得を目指し、学部・学科、学域・学類の特性に応じて、必修科目または選択科目として配置します。

〔科目の構成（全体）〕

自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。他学科等向けの同名クラスは履修できません。また、再履修の際は、所属学部・学域に担当されたクラスを履修してください。

なお、履修希望者が多数となった場合は、履修者制限を行う場合があります。また、各クラスの教科書、試験・成績評価、関連科目等を含む詳細な情報は、シラバスを参照してください。

〔履修上の注意（全体）〕

実験を履修する場合は、各自で保険（学生教育研究災害傷害保険〔学研災〕および同付帯保険や学生総合共済など）に加入しておいてください。

7-1. 数学

〔カリキュラム概要〕

数学は科学的論理的にものごとを捉えようとする全ての分野において基礎となる学問であり、文系理系を問わず学生にとってきわめて重要な科目です。基礎教育科目の数学では、各学生の専門課程での学びの基礎となる線形代数、微積分、微分方程式に関する科目だけでなく、数学的な考え方や活用方法を身に付けるための科目や、統計的な考え方や基本的な統計手法を身に付けるための科目を、学部・学科、学域・学類の特性に応じて、必修科目または選択科目として配置します。

〔科目の構成〕

主に1年次配当科目として、微積分1A、1B、2、線形代数1、2A、2B、数学1、2、基礎数学A、B、数学リテラシー1、2、統計学基礎1、2、2年次またはそれ以降の配当科目として、常微分方程式、複素解析、応用数学、ベクトル解析、数値解析、確率統計で構成されています。学部・学科、学域・学類によって、配当の有無や配当年次、必修・選択は異なるので、学部・学科、学域・学類ごとの科目構成の詳細は『要覧』で確認してください。

7-2. 物理学

〔カリキュラム概要〕

物理学は、経験や実験事実を基に、自然界の法則を追求する学問です。したがって、物理学関連分野だけでなく、化学や生物学などを含むあらゆる自然科学の基礎をなすものです。今日の私たちの生活を豊かにしているさまざまな科学技術の発達も、物理学の発展無しには不可能であったと言っても過言ではありません。皆さんが理系のどのような分野に

進まれるにしても、その専門分野を理解するためには、物理学の基礎を理解しておくことが不可欠です。

そこで、基礎教育科目として提供される物理学関連科目は、目的に応じて3つに大別される科目から構成されています。

〔科目の構成〕

大別	概要	科目名
専門基礎的科目	専門科目を学ぶ上で必要となる、物理学各分野（力学、電磁気学など）の基礎を学ぶ科目です。	（講義科目） 基礎力学 A1、A2、 B1、B2、B3、C 基礎電磁気学 A1、A2、C 基礎熱力学 近代物理学 基礎量子力学 A、B 基礎統計力学 （実験科目） 基礎物理学実験 1A、1B、 2A*、2B* 応用物理学実験** （演習科目） 基礎物理学演習
医療系向け科目	医療系で必要とされている分野に重きを置いて、物理学の基礎知識を学ぶ科目です。	物理学基礎
入門的科目	これまで物理学になじみが薄かった人を対象に、物理学について幅広く学ぶ入門的な科目です。	入門物理学 1、2 入門物理学実験

*基礎物理学実験 2A、2B の履修にあたっては、入門物理学実験、基礎物理学実験 1A、1B いずれかの単位を修得していることを要します。

**応用物理学実験の履修にあたっては、基礎物理学実験 1B の単位を修得していることを要します。

7-3. 化学

〔カリキュラム概要〕

化学は、さまざまな物質の構造と性質について実験と理論の両面から解明し、新しい化学反応の実現と優れた機能を持つ物質の設計・創造に取り組むことで、あらゆる先端科学の基盤となる学問です。また、環境やエネルギーといった現在人類が直面するさまざまな課題を解決するうえで、物質を扱う化学の知識と技術が果たす役割は大きいといえるでしょう。基幹教育で化学的な知識・技術の基礎を学んでください。

〔科目の構成〕

国際基幹教育機構が提供する「化学」の基礎教育科目は、講義科目として基礎無機・分析化学 A および B、基礎物理化学 A および B、基礎有機化学 A および B、基礎無機・物理化学、基礎有機化学があります。また実験科目として基礎化学実験があります。学部・学科、学域・学類によって選択できる科目が異なるので履修登録の際は注意してください。

7-4. 生物学

〔カリキュラム概要〕

生物学に関連する科学や技術は、近年、目まぐるしく進展しています。バイオテクノロジーやゲノム編集、再生医療、生物多様性、地球温暖化などに関する話題を見たり聞いたりしない日はないといってもいいでしょう。生物学は、生物の一員である私たちの生活や、あらゆる生物をはぐくむ地球の環境問題とも密接な関わりをもつ科学分野です。「生物学」の基礎教育科目では、講義と実験を通して、生命の成り立ちから多様な生命現象までを幅広く学ぶことで、単なる知識の暗記に終わることなく、「生命」の多面的な理解に繋がる思考力や洞察力を身に付けることをめざします。

〔科目の構成〕

「生物学」の基礎教育科目には、講義科目である「生物学 1」、「生物学 2」、「生物学 A」、「生物学 B」、「生物学 C」と、実験科目である「生物学実験 A」、「生物学実験 B」があります。「生物学 1」では生物の変遷や生物と環境との関わり合い、「生物学 2」では生命現象に関わる物質や生物の構造を主に学びます。また、「生物学 A」では生物の構造と機能、「生物学 B」では分子生物学とそれに関連する生命科学、「生物学 C」では動物学の諸分野の基礎を主に学びます。「生物学実験 A」と「生物学実験 B」では、生物学の研究に特有の実験方法や観察技術を習得します。

〔履修上の注意〕

「生物学 1」と「生物学 2」は、2つの科目を通して、生物学の基礎を幅広く学ぶための科目であるため、両方を履修することが望まれます。また、「生物学 A」と「生物学 B」の履修の前に、「生物学 1」と「生物学 2」を修得していることが望まれます。

7-5. 地学

〔カリキュラム概要〕

地球学は、過去から現在に至る地球の実態を学際的に認識し、その未来を予測するための知識と技術を構築するための学問です。その取り扱う範囲は、火山活動や地震活動、岩石と鉱物、自然環境、地形、地球と生命の歴史、さまざまな資源やエネルギー、自然災害、地球環境問題など、多岐にわたっています。地球の真の姿を把握するためには、地球を構成する物質が物理・化学作用によって生起する現象の中から法則性を見出すとともに、さまざまな作用が相互に影響し、変遷を重ねてきた複雑なシステムとしての地球の歴史を解明する必要があります。

私たちの住処である地球の歴史を知ることは、私たちの現在の生活、さらには未来の生活を構築し、守る上で重要な指針となります。地球学に関わる講義、実験では、固体地球に関する内容を中心に取り扱い、天文・気象分野の内容も一部含みます。地球学の基礎を習得できるようなカリキュラムを構成しています。

〔科目の構成〕

講義科目には、地球学入門、地球学基礎 A、地球学基礎 B があり、いずれも選択科目として提供されます。履修順序に指定はありません。実験科目には、地球学実験 A、地球学実験 B、地球学実験 C があります。

杉本キャンパス開講の地球学実験 A、地球学実験 B、地球学実験 C の定員は 30 人です。中百舌鳥キャンパス開講の地球学実験 C の定員は 24 人です。

〔履修上の注意〕

高等学校での地学履修の有無は問いません。

また実験を履修するにあたっては高等学校の地学の履修の有無を問いませんが、「地球学基礎 A」、「地球学基礎 B」もしくは「地球学入門」を履修しているとより理解が深まります。

7-6. 情報学

〔カリキュラム概要〕

あらゆるところでコンピュータが利用される現代社会では、「情報」に関する知識や技術は広く必要とされています。本学では情報に関する基礎教育科目として、(1) コンピュータやネットワークの動作原理を修得する「情報システム概論」、(2) 大量のデータを効率的に蓄積・検索するためのデータベースや情報検索のしくみ等の修得を目的とする「データベースと情報検索」、(3) プログラミング能力を修得する「プログラミング入門 A・B」を開講し、大学での研究はもとより、社会に出てからも広く求められる知識・技術を修得します。

(なお、「プログラミング入門 A」は、各学部・学科、学域・学類で適したプログラミング言語を用いて学修する科目となっています)

〔科目の構成〕

これらの授業はすべて「情報リテラシー」の単位を修得していることを前提としています。

〈プログラミング入門について〉

「プログラミング入門 A」は自分の所属する学部・学科、学域・学類に向けたクラスを履修すること。他学科等向けの同名クラスは履修できません。「プログラミング入門 B」は、自分の所属する学部・学科、学域・学類に向けたクラスが開講されている場合はそのクラスを履修してください。開講されていない場合はどの「プログラミング入門 B」を履修しても構いません。

〔履修上の注意〕

授業は各自の PC を用いて行います。必要なソフトウェアのインストールなどについては授業中に指示します。

〔2022年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考
				講義	演習	実習		杉本		中百舌島		
								前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	数学	基礎数学A	2	2	○			○				
		基礎数学B	2	2	○				○			
		数学リテラシー1	2	2	○					○		
		数学リテラシー2	2	2	○						○	
		数学1	2	2	○					○		
		数学2	2	2	○						○	
		微積分1A	2	2	○				○		○	
		微積分1B	4	4	○					○		
		微積分2	2	2	○					○		○
		線形代数1	2	2	○				○		○	
		線形代数2A	2	2	○					○		○
		線形代数2B	4	4	○						○	
		常微分方程式	2	2	○				○		○	
		複素解析	2	2	○					○		○
		ベクトル解析	2	2	○					○		
		応用数学	2	2	○					○		○
		数値解析	2	2	○					○		○
		統計学基礎1	2	2	○				○		○	
	統計学基礎2	2	2	○					○		○	
	確率統計	2	2	○					○		○	
	物理学	基礎力学A1	4	4	○				○			
		基礎力学A2	2	2	○					○		
		基礎力学B1	2	2	○					○		○
		基礎力学B2	2	2	○					○		○
		基礎力学B3	2	2	○					○		
		基礎力学C	2	2	○				○		○	
		基礎電磁気学A1	4	4	○					○		
		基礎電磁気学A2	2	2	○				○			
		基礎電磁気学C	2	2	○				○	○	○	○
		基礎熱力学	2	2	○				○		○	
		近代物理学	2	2	○				○		○	
		基礎量子力学A	2	2	○					○		○
		基礎量子力学B	2	2	○					○		○
基礎統計力学		2	2	○					○			
基礎解析力学		2	2	○						○		
物理学基礎	2	2	○				○					
入門物理学1	2	2	○				○					
入門物理学2	2	2	○					○				
基礎物理学演習	2	2		○					○	○		
基礎物理学実験1A	6	3			○		○	○				
基礎物理学実験1B	4	2						○		○		
基礎物理学実験2A	4	2					○			履修には、入門物理学実験、物理学実験1A、物理学実験1Bいずれかの単位修得が必要		
基礎物理学実験2B	4	2						○				
応用物理学実験	4	2						○	○	履修には、基礎物理学実験1Bの単位修得が必要		
入門物理学実験	4	2						○				

科目区分	科目名	週時間数	単位数	授業形態			配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考
				講義	演習	実習		杉本		中百舌鳥		
								前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	化学	基礎無機・分析化学A	2	2	○			○				
		基礎無機・分析化学B	2	2	○				○			
		基礎物理化学A	2	2	○			○	○			
		基礎物理化学B	2	2	○				○			
		基礎有機化学A	2	2	○			○				
		基礎有機化学B	2	2	○				○			
		基礎無機・物理化学	2	2	○			○		○		
		基礎有機化学	2	2	○			○	○		○	
		入門化学	2	2	○				○			
		基礎化学実験	4	2			○	○	○	○	○	○
	生物学	生物学1	2	2	○			○		○		
		生物学2	2	2	○				○		○	
		生物学A	2	2	○			○				
		生物学B	2	2	○				○		○	
		生物学C	2	2	○			○				
		生物学実験A	4	2			○	○	○	○	○	○
		生物学実験B	4	2			○		○		○	
	地球学	地球学入門	2	2	○			○	○	○	○	
		地球学基礎A	2	2	○			○				
		地球学基礎B	2	2	○				○			
		地球学実験A	4	2			○	○				
		地球学実験B	4	2			○		○			
		地球学実験C	2	1			○	○	○	○	○	
	情報学	情報システム概論	2	2	○				○		○	
		データベースと情報検索	2	2	○				○		○	
		プログラミング入門A	2	2		○			○		○	
		プログラミング入門B	2	2		○			○		○	

●学部・学科、学域・学類によって配当年次が異なるので、それぞれの『要覧』を確認してください。

IV. 履修に関するその他の情報



IV. 履修に関するその他の情報

1. Q&A

Q1. 『国際基幹教育機構 開設科目要覧』は、毎年発行されるものでしょうか。もしくは在学中使用するものですか？

A1. 本冊子は、入学時から学士課程在学中使用します。紛失した場合の再配付はしませんので、大切に保管してください。

なお、開設科目については今後、開講期の変更等が生じる可能性があるため、本冊子には、2022年3月1日時点で開講が予定されているものを掲載しています。変更がある場合は学生ポータル(UNIPA)等に掲載しますので、注意して確認するようにしてください。

Q2. 主たる学びのキャンパスは中百舌鳥ですが、杉本キャンパスのみで開講されている科目を履修したい場合、どうすればよいでしょうか？

A2. 主たる学びのキャンパス以外で開講される授業の履修はできません。

ただし、例外的に許可される場合がありますので、詳細は、本冊子 P.5～6「5. 履修課程と履修上の注意」の「(10)キャンパスをまたぐ授業の履修」を参照してください。

Q3. オンラインの授業であればキャンパスを移動する必要はないと思いますが、他キャンパスで開講される授業を履修できますか。

A3. 履修できません。授業の実施方法にかかわらず、基幹教育科目は主たる学びのキャンパスで開講される授業を履修してください。

Q4. 外国語科目(英語)、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目等、クラス指定のある科目について、自分の所属する学部・学科、学域・学類以外のクラスを履修することはできますか？

A4. 所属の学部・学科、学域・学類に配当されたクラスのみ履修できます。
他のクラスは履修できません。

Q5. 総合教育科目で履修したい科目が杉本キャンパスで開講されます。主たる学びのキャンパスが中百舌鳥なので、履修できないのですが、次年度以降、中百舌鳥キャンパスで開講されることはありますか？

A5. 総合教養科目の開講科目とキャンパスについては今後変更する可能性もありますので、Webサイトや学生ポータル(UNIPA)等をよく確認するようにしてください。

Q6. 基幹教育科目を3年次以降に履修しても問題ないですか？

A6. 問題ありません。ただし、2年次以降は専門科目の履修が中心となりますので、時間割表を確認しながら、計画的に履修してください。

なお、2年次以降に杉本、中百舌鳥キャンパス以外が主たる学びのキャンパスとなる学部所属する場合は、特に、1年次前期から計画的に基幹教育科目を履修してください。

Q7. 初修外国語について、週何回コースを選ぼうか悩んでいます。コース選択にあたってのポイントを教えてください。

A7. まずは P.37[学部・学域ごとの配当コース]の表で自身の所属が、どのコースを履修できるか確認してください。コースを選択できる所属の場合は、『初修外国語履修ガイド』やオリエンテーション動画を参照してください。また、本冊子P.36も参考にしてください。

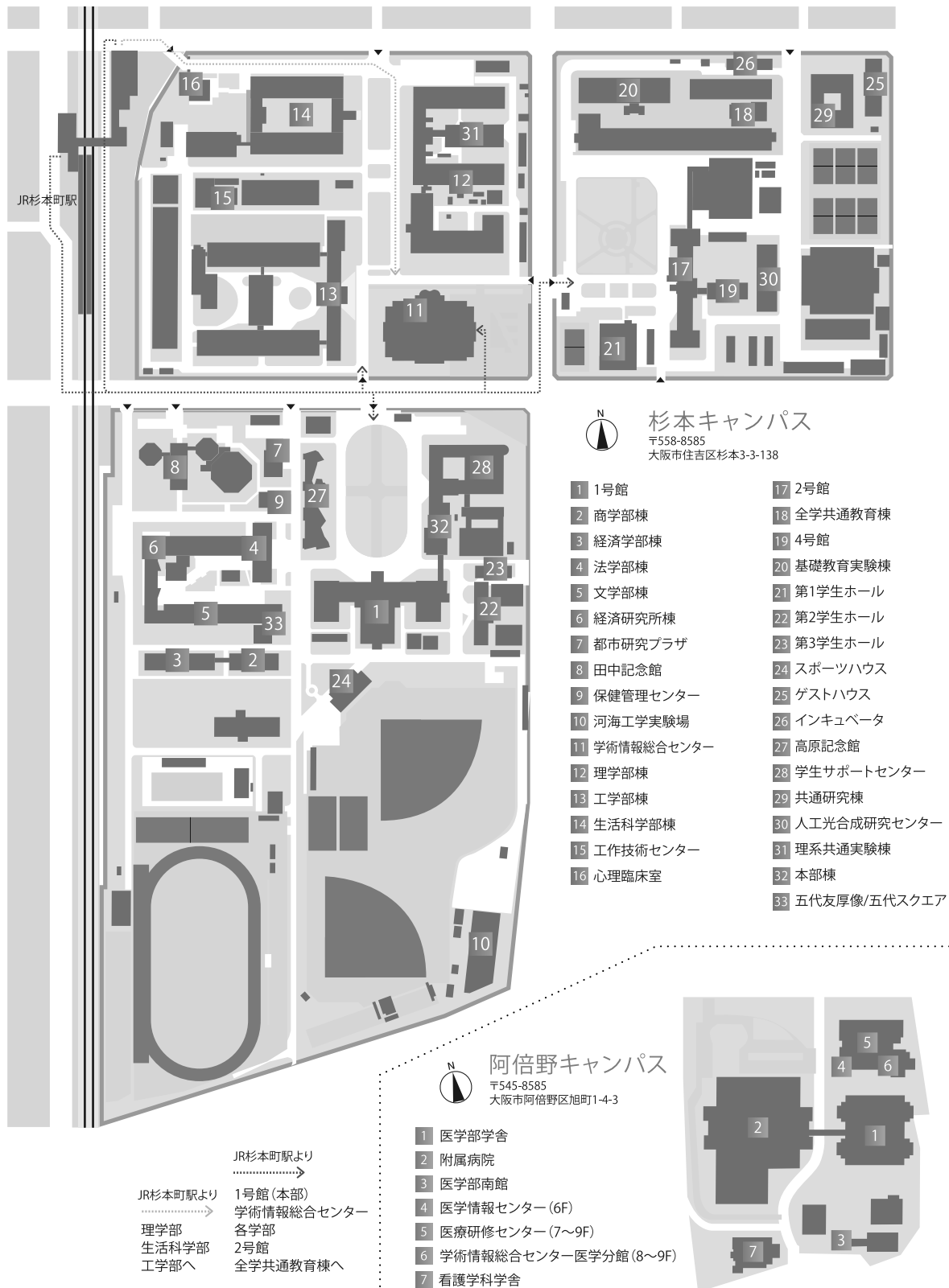
Q8. 初修外国語科目の初級履修免除制度について、免除された科目の代わりに中級科目の単位を修得して卒業要件を満たせば良いということですか？その場合、科目に指定はありますか？

A8. 初級履修免除制度とは、1年次の各コースに配当されている「入門」「初級」「基礎」「応用」科目の履修を免除し、よりレベルの高い内容の授業から履修できるという制度です。

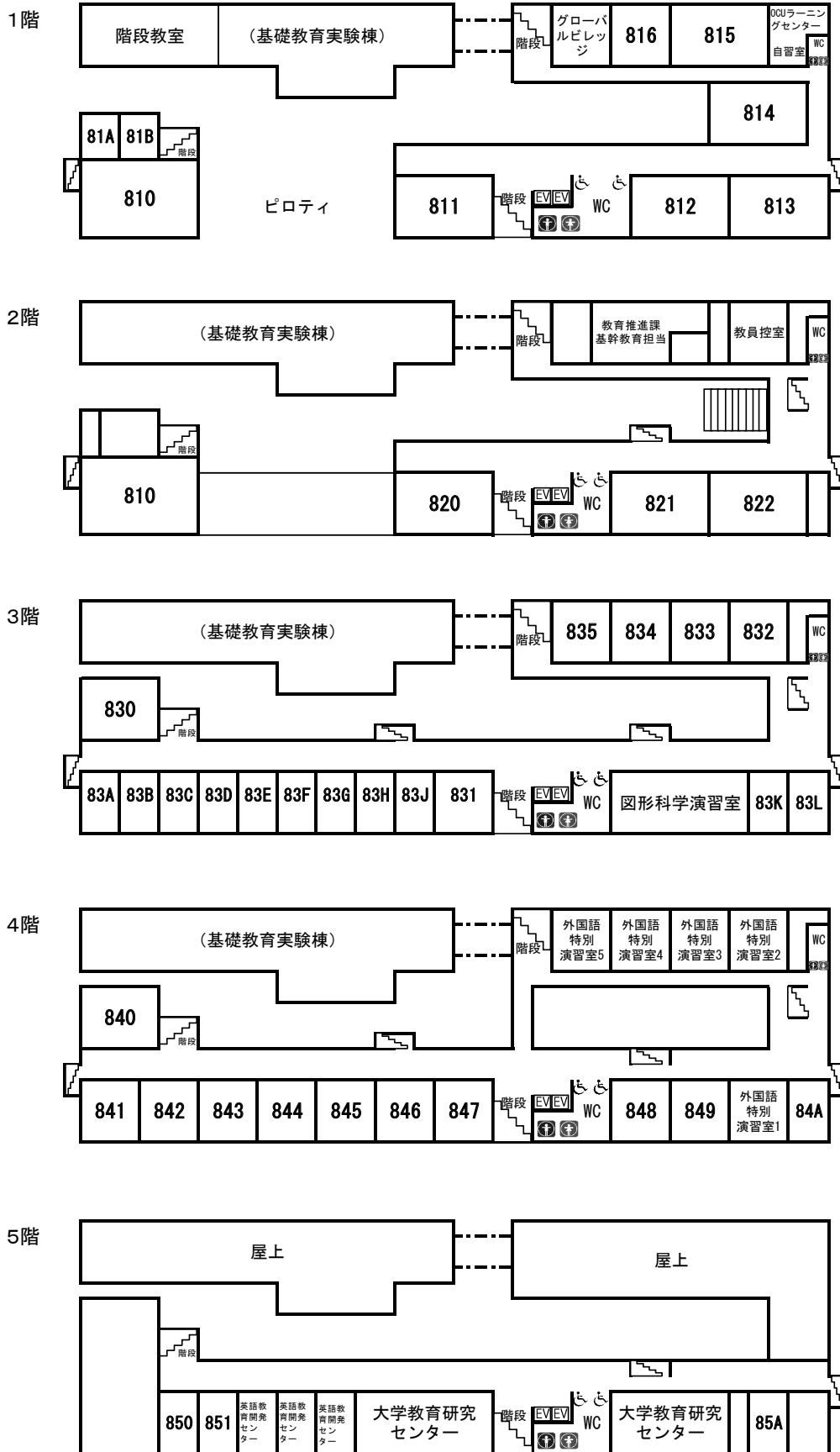
単位認定制度ではありませんので、卒業に必要な初修外国語の単位については、当該言語の「特修」科目等を履修することで修得してください。

2. キャンパス配置図等

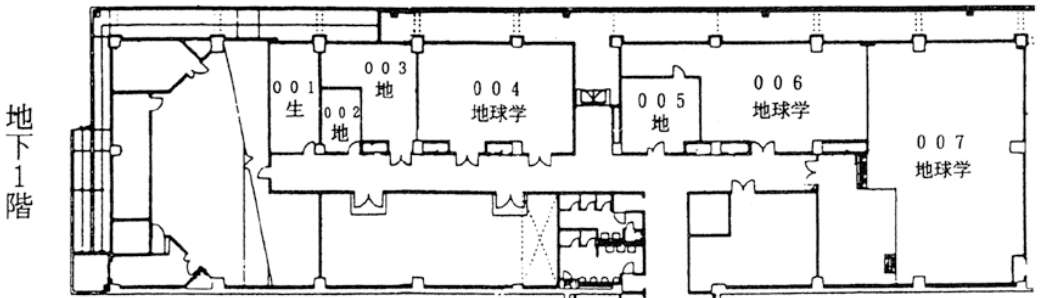
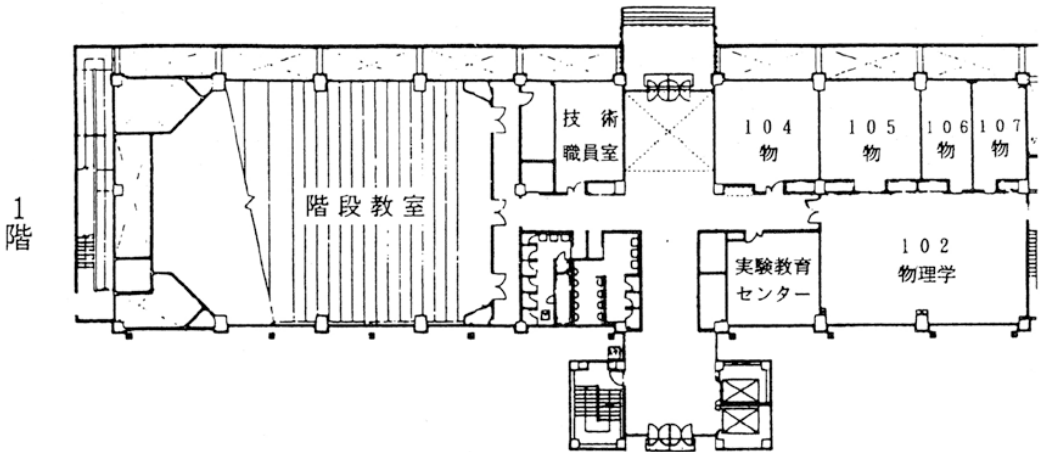
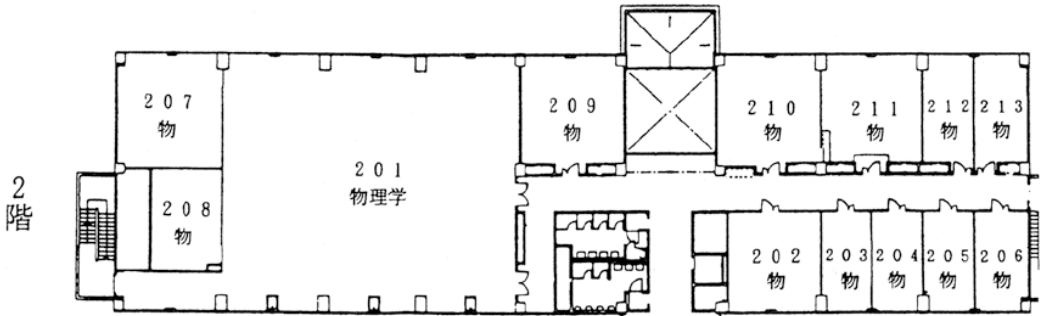
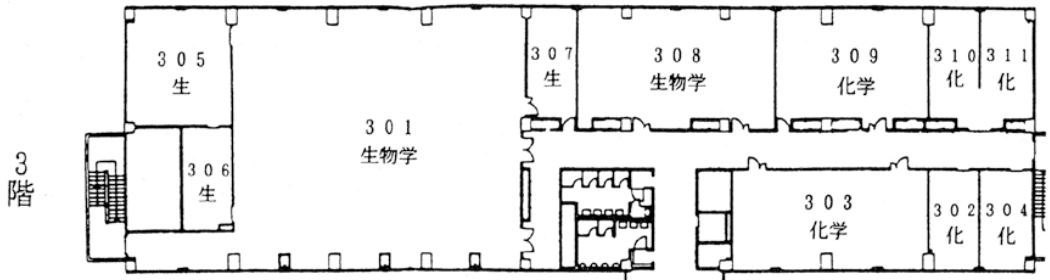
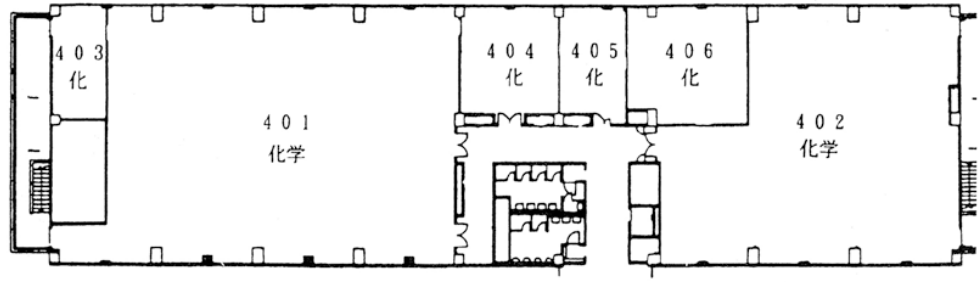
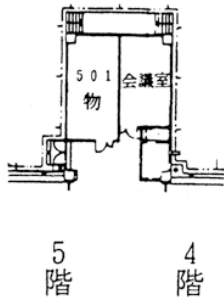
【杉本キャンパス・阿倍野キャンパス】



全学共通教育棟 教室配置図



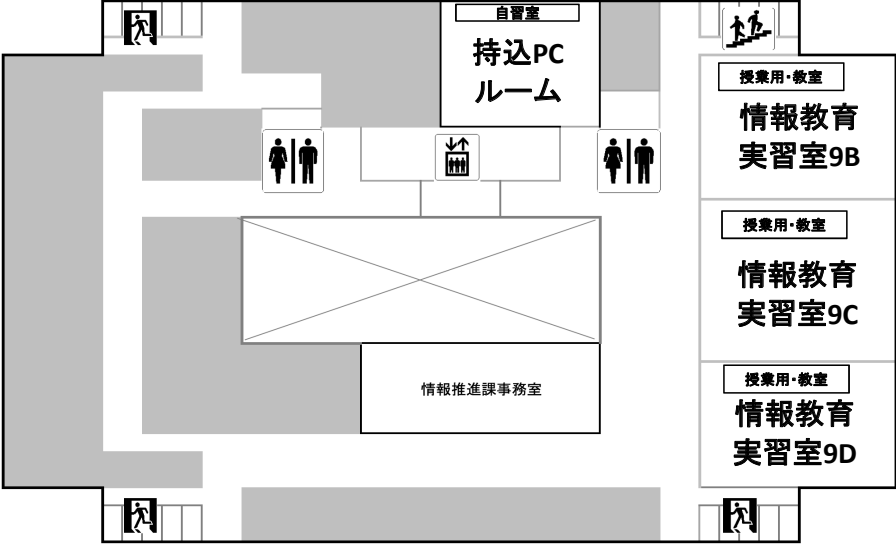
基礎教育実験棟



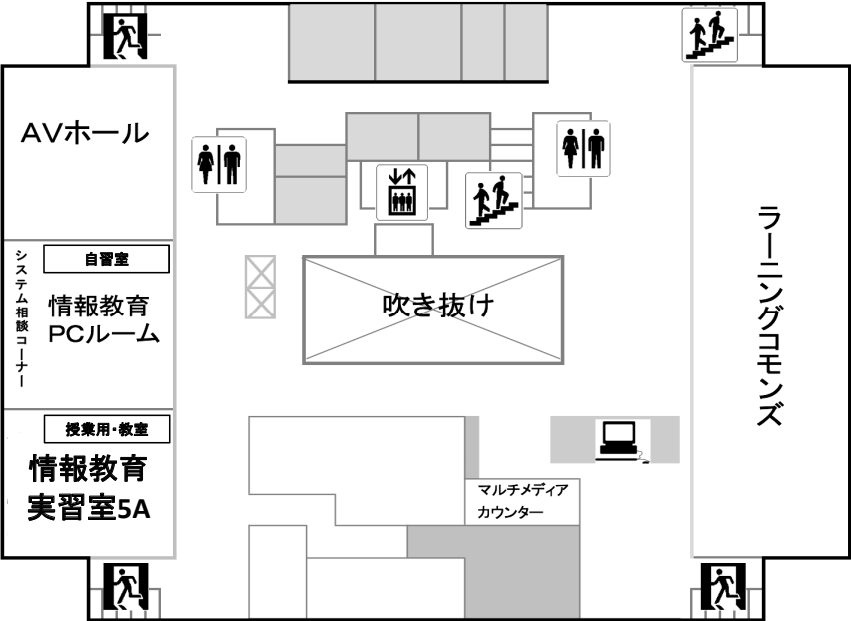
(1階以外はエレベーター及び階段部分を省略した。
男子、女子、身障者用の便所は地階から4階の各階にある。)

学術情報総合センター

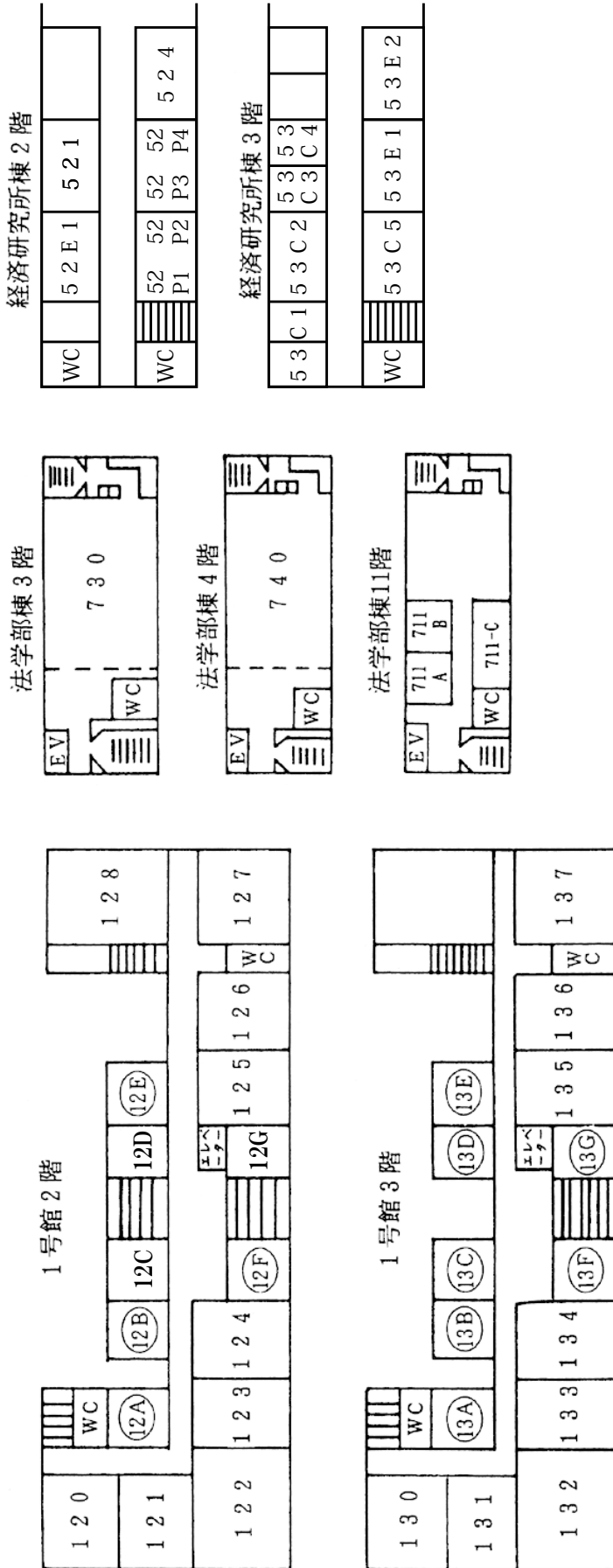
[9階フロアマップ]



[5階フロアマップ]

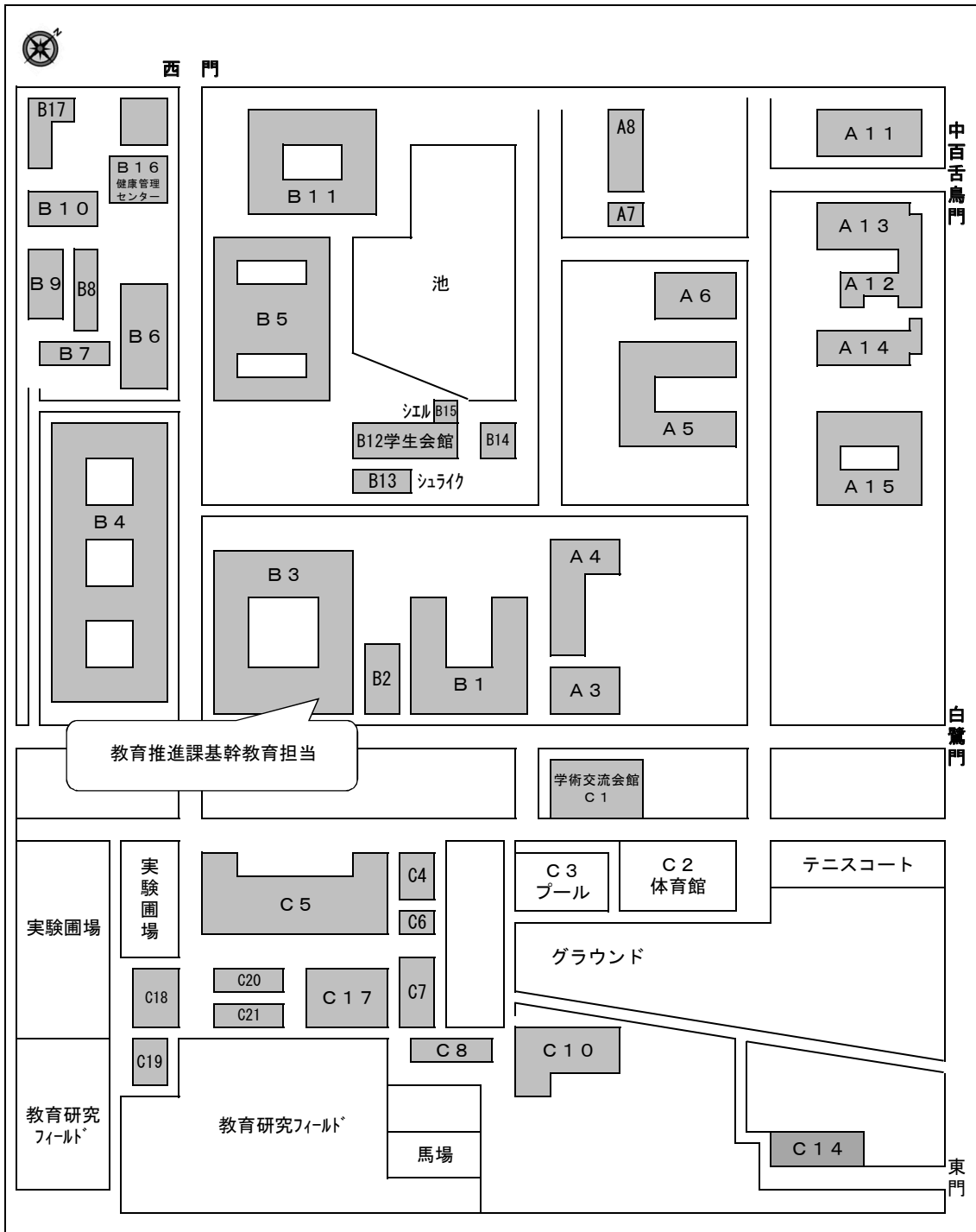


本館地区各教室見取図



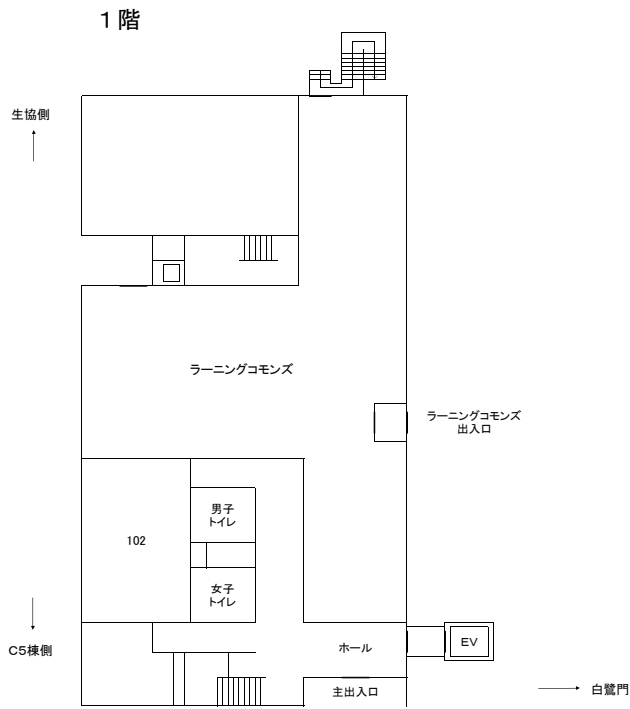
【中百舌鳥キャンパス】

中百舌鳥キャンパス配置図

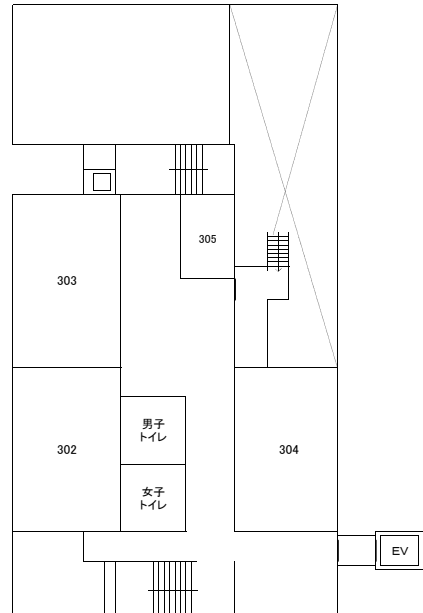


B2棟 平面図

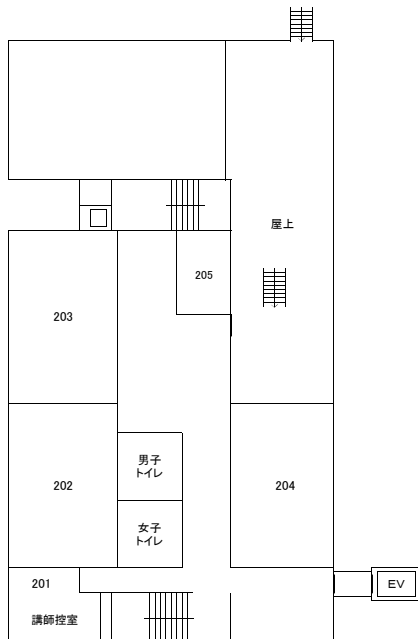
B2棟 平面図



3階

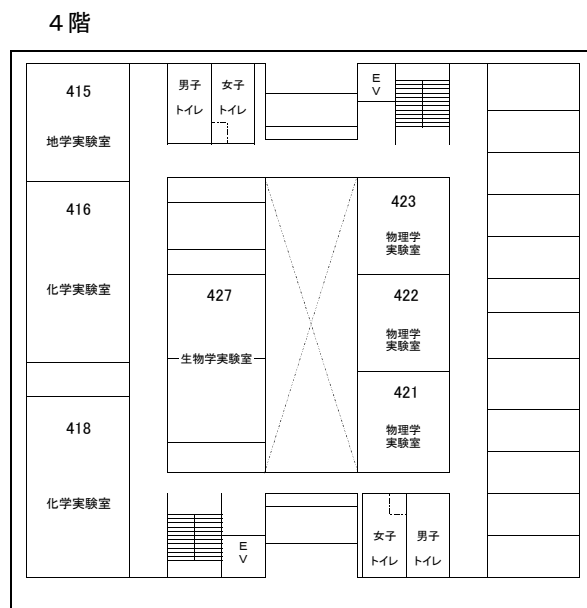
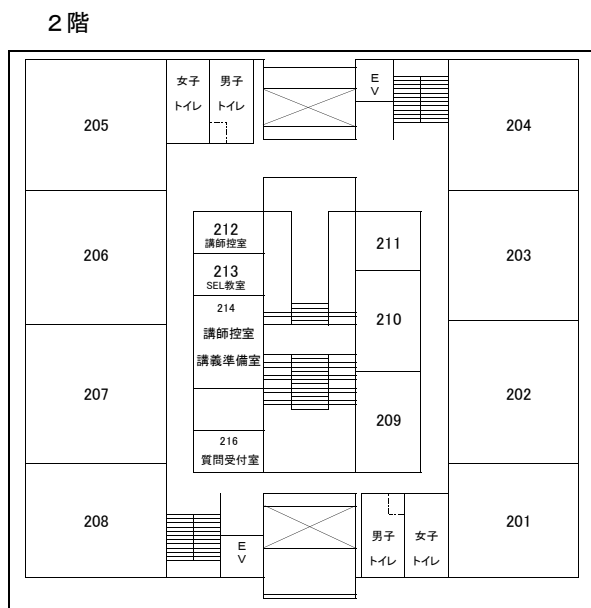
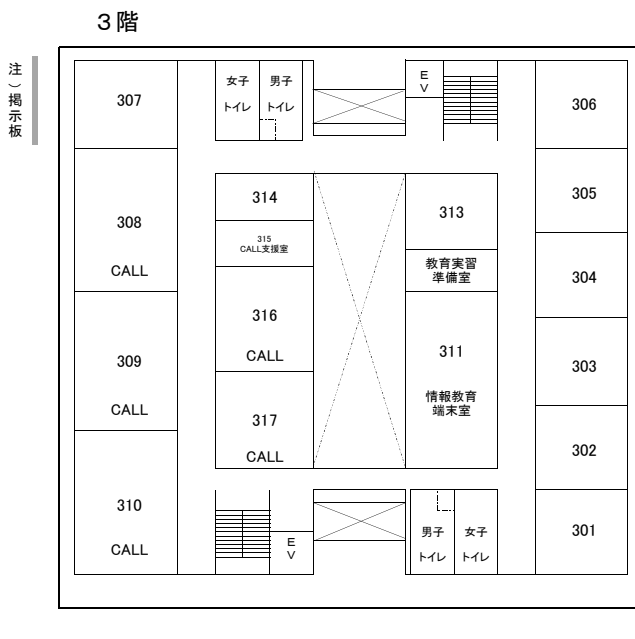
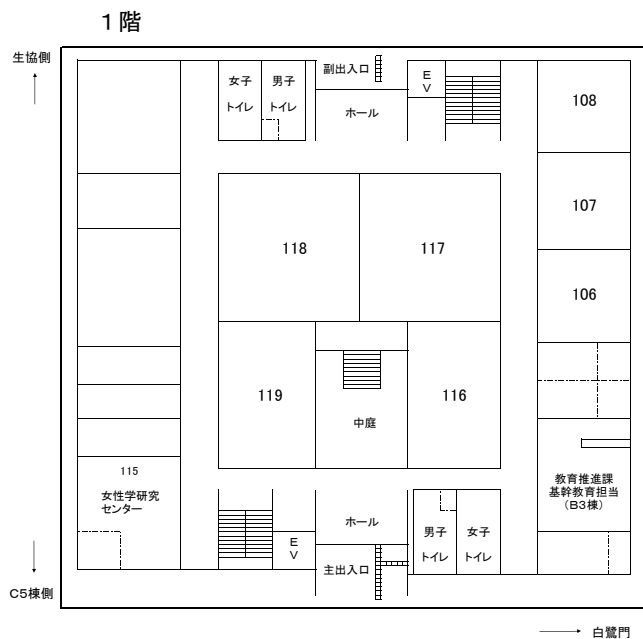


2階



B3棟 平面図

B3棟 平面図



* 5階は教員研究室、6階は経済経営法律系図書室、演習室です。

3. 相談窓口

- 教育推進課基幹教育担当（杉本キャンパス）
全学共通教育棟 2 階 TEL 06-6605-2935
- 教育推進課基幹教育担当（中百舌鳥キャンパス）
B3 棟 1 階 TEL 072-254-9600

大阪公立大学国際基幹教育機構

教育推進課 基幹教育担当

(杉本・中百舌鳥キャンパス)